令和8年6月29日
三木市社会福祉審議会資料

第５期三木市地域福祉計画の策定に係る

市民アンケート調査報告書

令和８年５月

Ⅰ　報告書の概要

１．分析の目的……1
２．調査の概要……1
３．調査結果の見方……1

Ⅱ　主な調査結果について

１．あなたご自身のことやご家族のことについて……2
２．あなたのふだんの生活状況について……6
３．住民同士の助け合いについて……15
４．民生委員・児童委員、社会福祉協議会について……21
５．地域活動やボランティア活動などについて……24
６．福祉サービスや地域の福祉について……32
７．災害時等の対応について……40
８．生活困窮者自立支援について……46
９．ひきこもりについて……49
10．居場所について……52
11．成年後見制度について……54
12．再犯防止に関することについて……56
13．認知症について……59

Ⅲ　調査結果から見た本市の課題について

１．地域の人間関係について……63
２．地域の助け合いへの意識について……63
３．支援を求める意識について……64
４．地域福祉の情報や制度について……64
５．支援を必要とする人への支援について……65

Ⅰ　報告書の概要

１．分析の目的

本報告書は、「第５期三木市地域福祉計画」の策定にあたっての基礎資料として、市の地域福祉に関する課題を把握することを目的として、令和８年１月に実施された市民アンケート調査の主な結果について、集計・分析したものです。

２．調査の概要

◆調査期間：令和８年１月28日～２月20日
◆調査対象：三木市に居住する18歳以上の方
◆調査方法：郵送によって調査票を配付し、回収は郵送またはインターネットを通じた回答のいずれかを回答者が選択する方式で実施

配付数	回収数	回収率
3,000 件	1,378 件	45.9%

３．調査結果の見方

◆回答結果の割合「%」は集計対象者総数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、選択肢からいずれか１つの選択肢を選ぶ設問であっても合計値が100.0%ちょうどにならない場合があります。

◆複数回答（回答数の表記のない場合は、当てはまる選択肢をすべて選択する形式）の設問の場合、各選択肢の回答割合の合計が100.0%を超える場合があります。この形式の設問については、質問文の末尾に「複数回答」と表記しています。

◆図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◆図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（回答者を限定する設問の限定条件に該当する人の総数）を表しています。

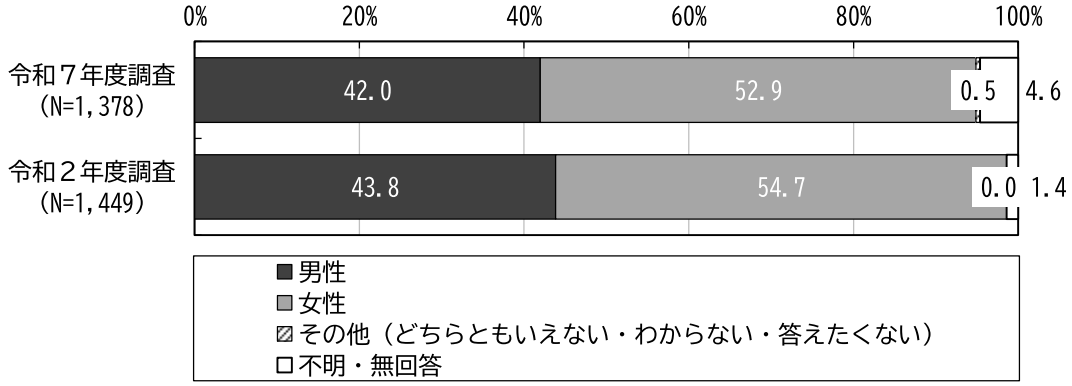
◆本文中の設問・選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ　主な調査結果について

１．あなたご自身のことやご家族のことについて

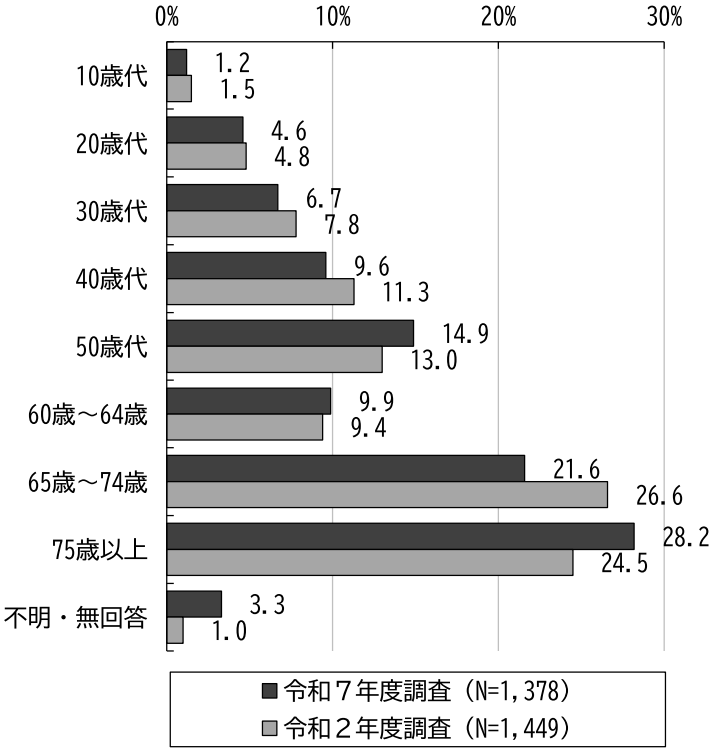
問１　（１）あなたの性別を教えてください。

◆「男性」が 42.0%、「女性」が 52.9%となっています。



問１　（２）年齢を教えてください。

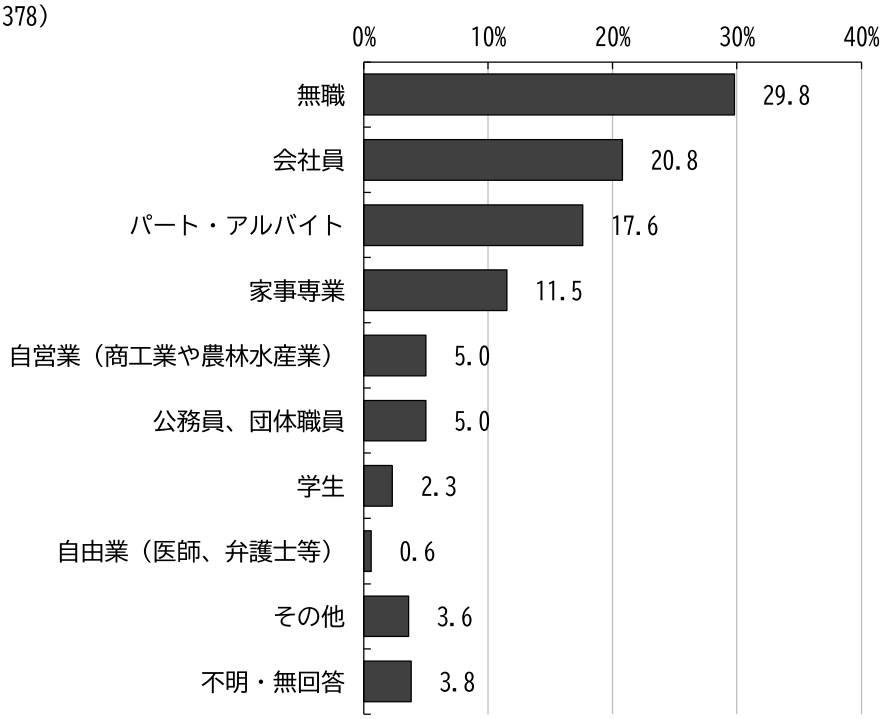
◆「75 歳以上」が 28.2%と最も多く、次いで「65 歳～74 歳」が 21.6%、「50 歳代」が 14.9%となっています。



問１　（３）あなたの職業について教えてください。

◆「無職」が 29.8%と最も多く、次いで「会社員」が 20.8%、「パート・アルバイト」が 17.6%となっています。

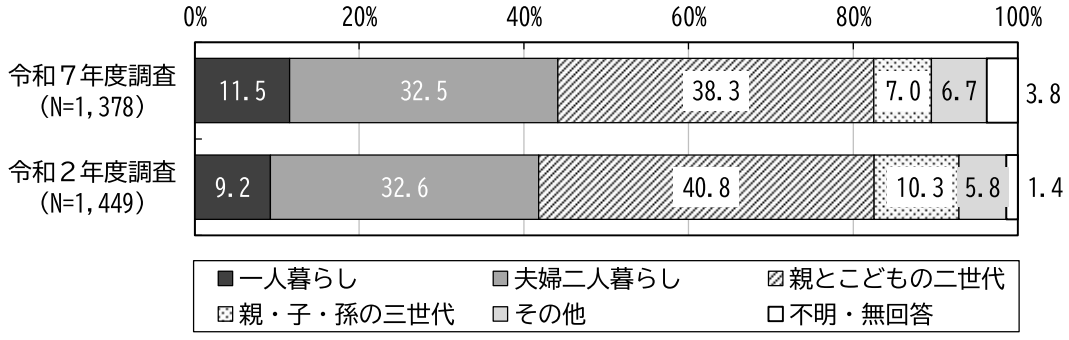
令和７年度調査（N=1,378）



問１　（４）あなたの家族構成について教えてください。

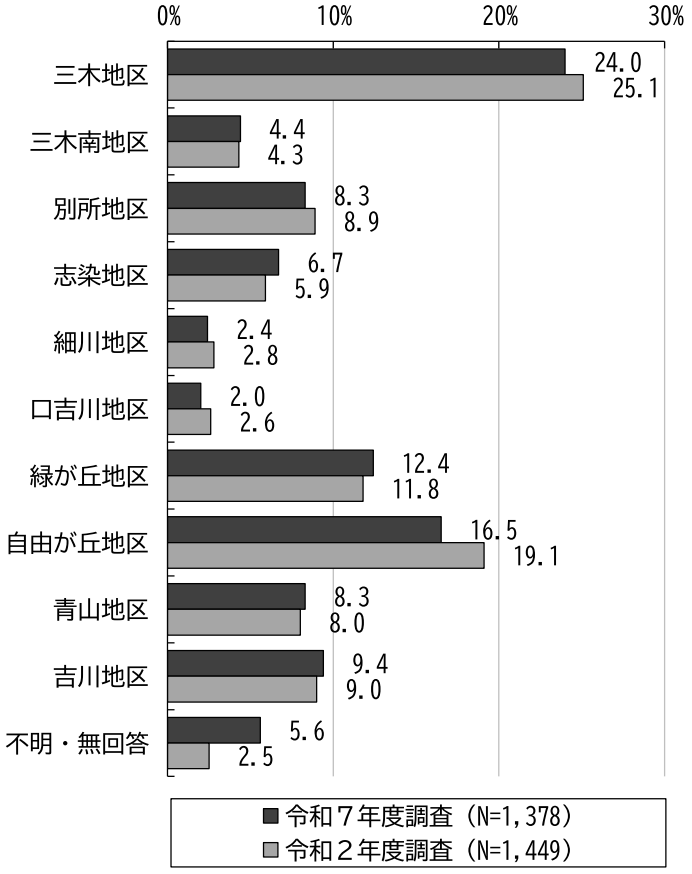
◆「親とこどもの二世代」が 38.3%と最も多く、次いで「夫婦二人暮らし」が 32.5%、「一人暮らし」が 11.5%となっています。

◆前回調査と比べると、「親・子・孫の三世代」が減少しています。



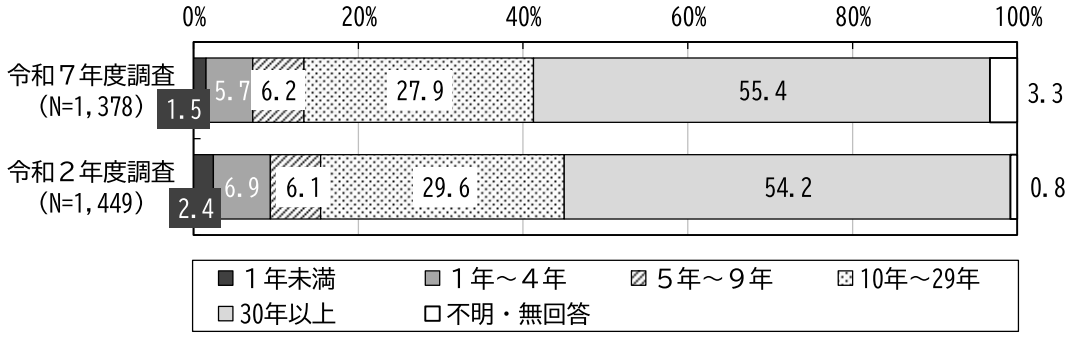
問１　（５）あなたがお住まいの地区はどこですか。

◆「三木地区」が 24.0％と最も多く、次いで「自由が丘地区」が 16.5％、「緑が丘地区」が 12.4％となっています。



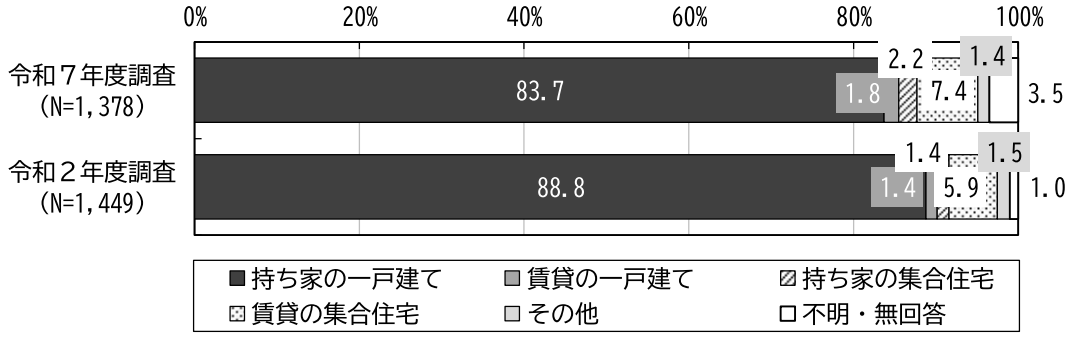
問１　（６）現在の場所にお住まいになってから何年たちますか。

◆「30 年以上」が 55.4％と最も多く、次いで「10 年～29 年」が 27.9％、「５年～９年」が 6.2％となっています。



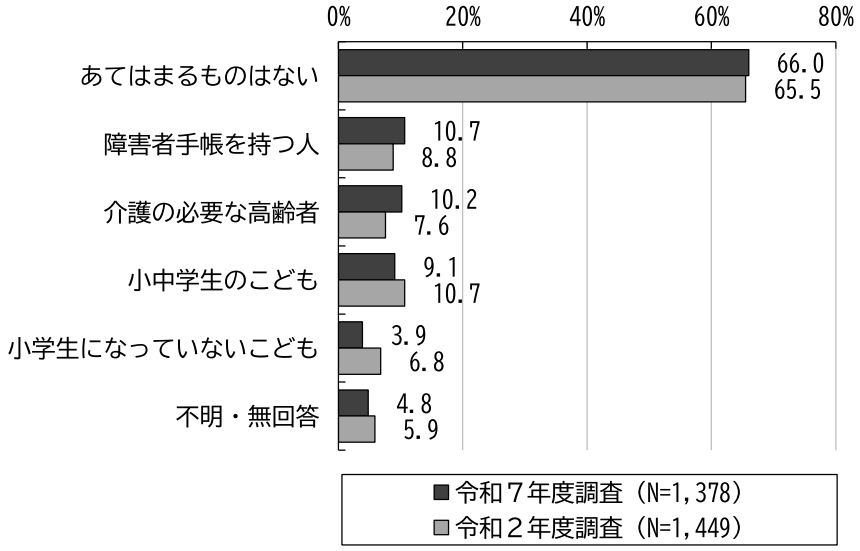
問１　（７）現在の住居の形態を教えてください。

◆「持ち家の一戸建て」が 83.7%と最も多く、次いで「賃貸の集合住宅」が 7.4%、「持ち家の集合住宅」が 2.2%となっています。



問１　（８）あなた自身を含め、家族の中に次の方は同居されていますか。【複数回答】

◆「あてはまるものはない」が 66.0%と最も多く、次いで「障害者手帳を持つ人」が 10.7%、「介護の必要な高齢者」が 10.2%となっています。



２．あなたのふだんの生活状況について

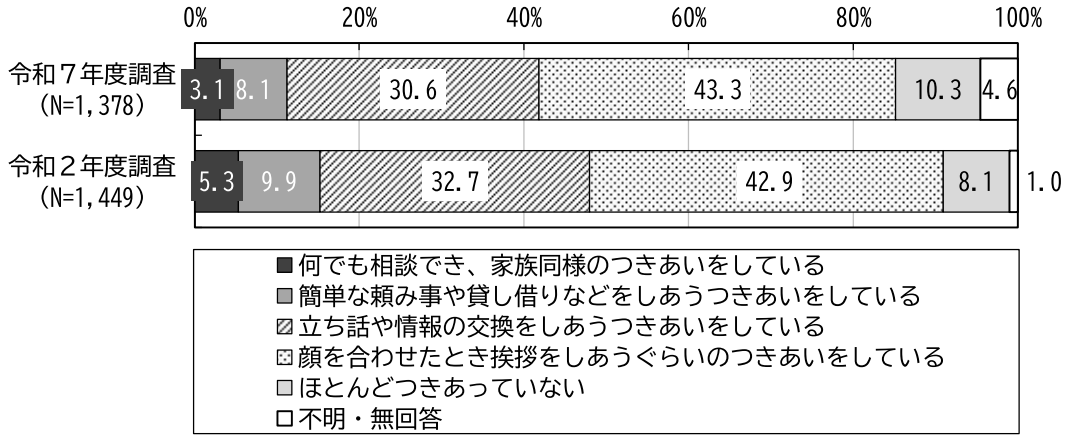
問２　あなたはどの程度のご近所づきあいをされていますか。

◆「顔を合わせたとき挨拶をしあうぐらいのつきあいをしている」が43.3%と最も多く、次いで「立ち話や情報の交換をしあうつきあいをしている」が30.6%、「ほとんどつきあっていない」が10.3%となっています。

◆前回調査と比べると、深いつきあいをしている割合（「何でも相談でき、家族同様のつきあいをしている」と「簡単な頼み事や貸し借りなどをしあうつきあいをしている」と「立ち話や情報の交換をしあうつきあいをしている」の計）が減少している傾向です。

◆年齢別にみると、10歳代～40歳代は「ほとんどつきあっていない」、50歳以上では、「立ち話や情報の交換をしあうつきあいをしている」が２番目に多くなっています。

◆地域別にみると、細川地区、口吉川地区は、全体と比べると、深いつきあいをしている割合が多い傾向です。



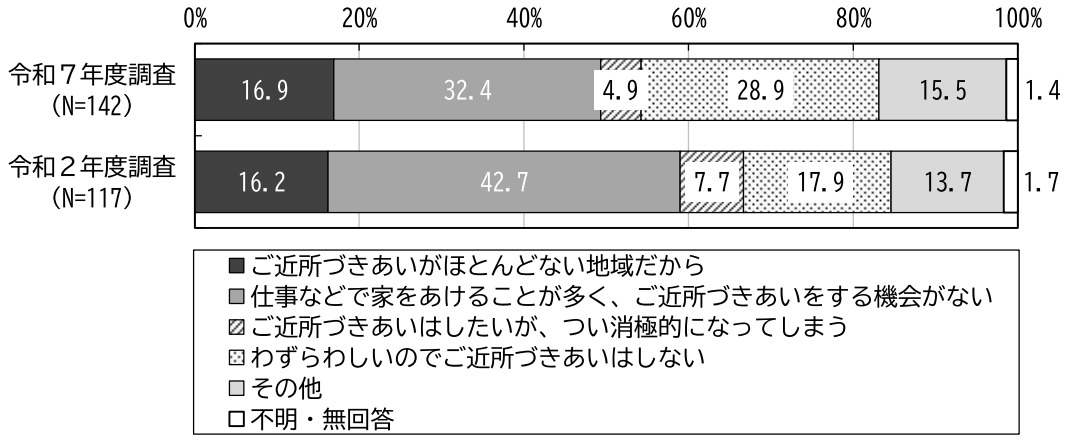
単位：%		何でも相談でき、家族同様のつきあいをしている	簡単な頼み事や貸し借りなどをしあうつきあいをしている	立ち話や情報の交換をしあうつきあいをしている	顔を合わせたとき挨拶をしあうぐらいのつきあいをしている	ほとんどつきあっていない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		3.1	8.1	30.6	43.3	10.3	4.6
年齢別	10歳代（N=16）	0.0	0.0	6.3	75.0	18.8	0.0
	20歳代（N=63）	4.8	3.2	6.3	58.7	27.0	0.0
	30歳代（N=92）	0.0	6.5	7.6	55.4	29.3	1.1
	40歳代（N=132）	0.8	7.6	19.7	51.5	20.5	0.0
	50歳代（N=206）	1.0	5.8	28.6	53.4	10.2	1.0
	60歳～64歳（N=137）	2.9	5.1	38.7	46.7	5.8	0.7
	65歳～74歳（N=297）	3.7	11.8	40.4	38.0	4.4	1.7
	75歳以上（N=389）	5.7	10.3	38.8	36.2	6.7	2.3

単位：%		何でも相談でき、家族同様のつきあいをしている	簡単な頼み事や貸し借りなどをしあうつきあいをしている	立ち話や情報の交換をしあうつきあいをしている	顔を合わせたとき挨拶をしあうぐらいのつきあいをしている	ほとんどつきあっていない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		3.1	8.1	30.6	43.3	10.3	4.6
地域別	三木地区（N=331）	3.6	7.9	32.3	41.4	13.9	0.9
	三木南地区（N=61）	4.9	9.8	39.3	41.0	4.9	0.0
	別所地区（N=115）	5.2	7.0	28.7	43.5	13.0	2.6
	志染地区（N=92）	1.1	3.3	31.5	50.0	12.0	2.2
	細川地区（N=33）	6.1	3.0	57.6	21.2	12.1	0.0
	口吉川地区（N=28）	3.6	17.9	42.9	35.7	0.0	0.0
	緑が丘地区（N=171）	1.2	9.9	26.9	50.9	9.4	1.8
	自由が丘地区（N=227）	3.5	6.6	31.3	48.9	7.9	1.8
	青山地区（N=114）	0.9	10.5	31.6	48.2	8.8	0.0
	吉川地区（N=129）	4.7	10.1	28.7	46.5	7.8	2.3

問２で「ほとんどつきあっていない」と回答された方のみ
問２－１　ご近所づきあいをされていない理由は何ですか。

◆「仕事などで家をあけることが多く、ご近所づきあいをする機会がない」が 32.4%と最も多く、次いで「わずらわしいのでご近所づきあいはしない」が 28.9%、「ご近所づきあいがほとんどない地域だから」が 16.9%となっています。

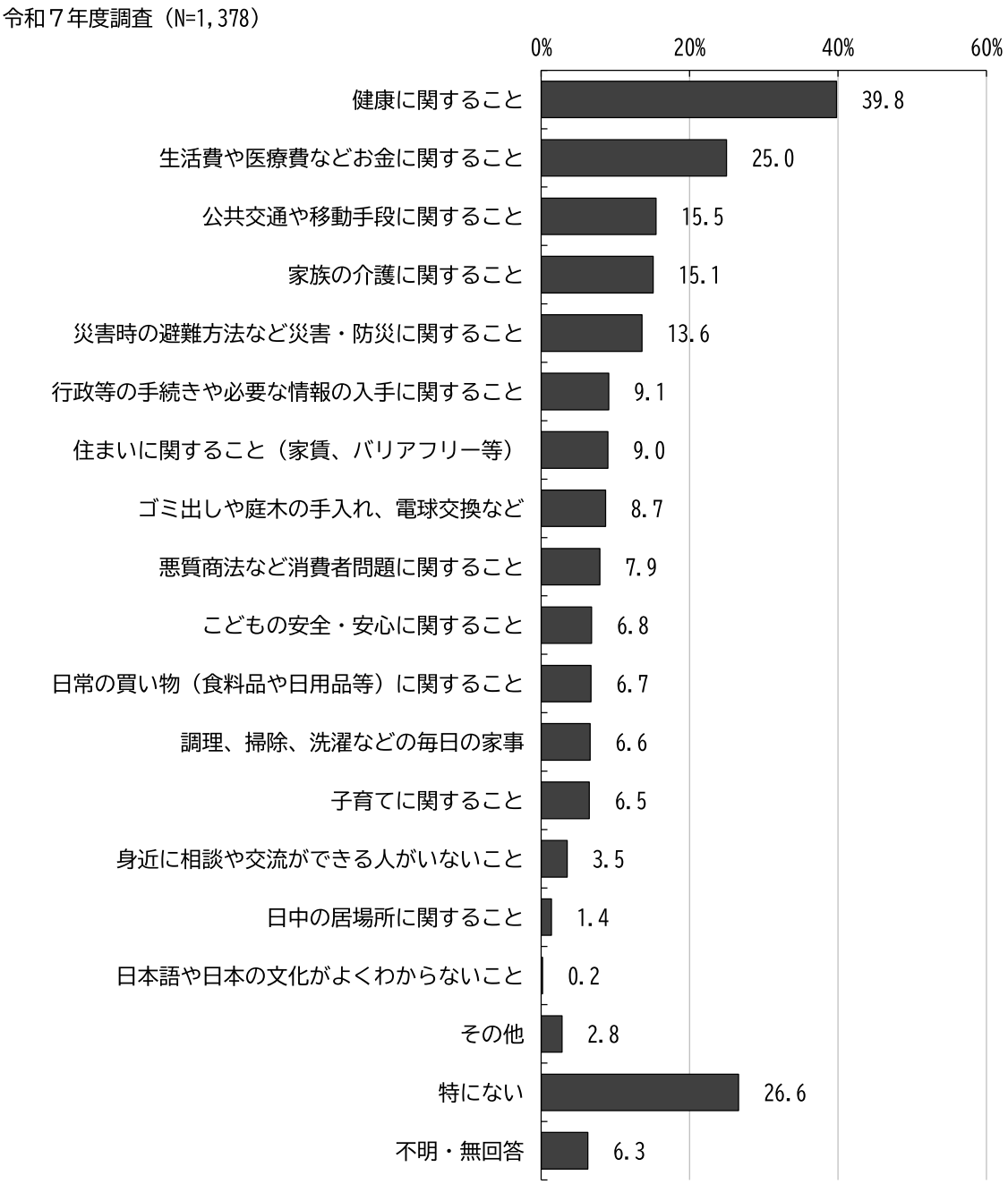
◆前回調査と比べると、「わずらわしいのでご近所づきあいはしない」が増加しています。



問３　ふだんの生活の中で困っていることや不安になっていることは何ですか。【複数回答】

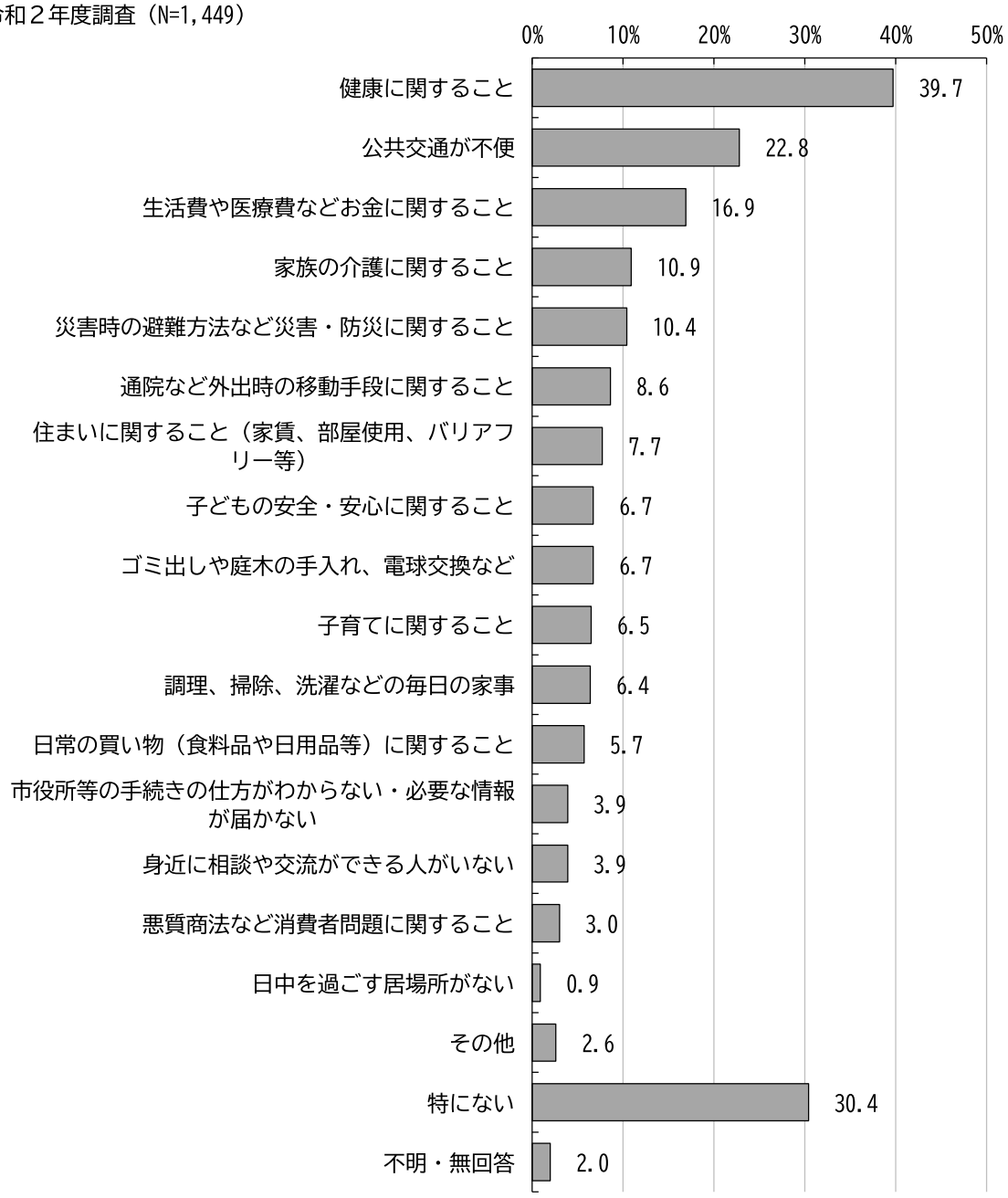
◆「健康に関すること」が 39.8％と最も多く、次いで「特にない」が 26.6％、「生活費や医療費などお金に関すること」が 25.0％となっています。

◆年齢別にみると、10 歳代は、「公共交通や移動手段に関すること」、20 歳代は「特にない」が４割程度と高くなっています。30・40 歳代は「健康に関すること」「生活費や医療費などお金に関すること」、50 歳代は「健康に関すること」「家族の介護に関すること」が上位２項目となっています。60 歳代以上は、全体と概ね同様の傾向です。



【参考】前回調査結果

令和２年度調査（N=1,449）

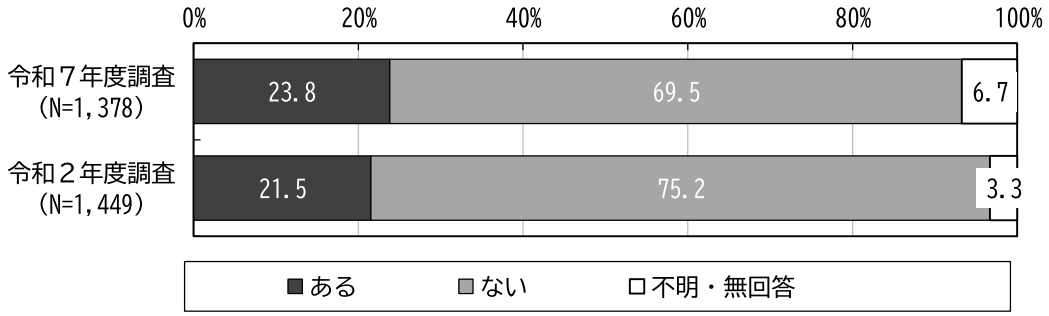


単位：%		健康に関すること	家族の介護に関すること	子育てに関すること	こどもの安全・安心に関すること	住まいに関すること（家賃、バリアフリー等）	悪質商法など消費者問題に関すること	災害時の避難方法など災害・防災に関すること	生活費や医療費などお金に関すること	調理、掃除、洗濯などの毎日の家事	ゴミ出しや庭木の手入れ、電球交換など
令和７年度調査（N=1,378）		39.8	15.1	6.5	6.8	9.0	7.9	13.6	25.0	6.6	8.7
年齢別	10歳代（N=16）	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	25.0	12.5	31.3	0.0	6.3
	20歳代（N=63）	17.5	4.8	7.9	3.2	6.3	1.6	9.5	15.9	3.2	6.3
	30歳代（N=92）	33.7	17.4	32.6	31.5	14.1	7.6	14.1	33.7	17.4	9.8
	40歳代（N=132）	27.3	18.2	18.9	23.5	9.8	5.3	16.7	37.1	9.8	7.6
	50歳代（N=206）	37.4	29.6	10.7	7.8	12.6	8.3	15.0	28.6	7.8	9.2
	60歳～64歳（N=137）	40.1	18.2	0.7	4.4	14.6	4.4	13.9	26.3	2.9	7.3
	65歳～74歳（N=297）	45.8	10.8	0.7	1.3	6.4	9.1	12.8	25.3	4.7	9.4
	75歳以上（N=389）	51.7	11.6	1.3	1.5	7.2	10.3	14.4	20.6	6.7	10.0
地域別	三木地区（N=331）	39.0	17.5	8.2	7.3	10.3	7.3	14.5	24.8	7.3	7.3
	三木南地区（N=61）	44.3	8.2	8.2	4.9	8.2	13.1	9.8	29.5	3.3	4.9
	別所地区（N=115）	47.8	13.0	7.8	7.0	8.7	9.6	16.5	24.3	6.1	13.0
	志染地区（N=92）	42.4	19.6	6.5	6.5	10.9	9.8	18.5	28.3	5.4	13.0
	細川地区（N=33）	60.6	21.2	3.0	6.1	18.2	3.0	3.0	27.3	15.2	15.2
	口吉川地区（N=28）	46.4	10.7	3.6	3.6	17.9	0.0	7.1	32.1	7.1	3.6
	緑が丘地区（N=171）	36.8	14.6	8.2	11.7	7.0	8.8	15.8	18.1	9.4	7.6
	自由が丘地区（N=227）	43.2	16.3	6.6	6.2	9.3	7.9	12.3	28.6	5.3	8.4
	青山地区（N=114）	28.9	11.4	3.5	5.3	7.0	12.3	16.7	27.2	5.3	10.5
	吉川地区（N=129）	44.2	17.1	5.4	5.4	8.5	4.7	11.6	27.1	6.2	10.1

単位：%		公共交通や移動手段に関すること	日常の買い物（食料品や日用品等）に関すること	行政等の手続きや必要な情報の入手に関すること	日中の居場所に関すること	身近に相談や交流ができる人がいないこと	日本語や日本の文化がよくわからないこと	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		15.5	6.7	9.1	1.4	3.5	0.2	2.8	26.6	6.3
年齢別	10歳代（N=16）	43.8	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3	6.3	25.0	6.3
	20歳代（N=63）	27.0	4.8	1.6	4.8	6.3	1.6	3.2	42.9	1.6
	30歳代（N=92）	22.8	12.0	19.6	2.2	5.4	1.1	1.1	21.7	1.1
	40歳代（N=132）	16.7	6.8	9.8	1.5	4.5	0.0	5.3	22.0	1.5
	50歳代（N=206）	14.1	5.3	8.7	1.9	3.4	0.0	2.9	28.6	1.0
	60歳～64歳（N=137）	13.1	4.4	13.1	0.0	2.9	0.0	7.3	29.9	1.5
	65歳～74歳（N=297）	11.1	4.7	7.7	1.7	1.3	0.0	1.7	32.7	3.0
	75歳以上（N=389）	17.2	9.8	8.5	0.8	4.6	0.0	1.8	23.1	6.2
地域別	三木地区（N=331）	13.9	5.4	10.0	1.2	3.3	0.3	1.5	25.4	4.8
	三木南地区（N=61）	8.2	6.6	3.3	1.6	1.6	0.0	0.0	31.1	0.0
	別所地区（N=115）	21.7	7.8	7.0	3.5	4.3	1.7	3.5	27.0	4.3
	志染地区（N=92）	19.6	13.0	13.0	3.3	3.3	0.0	3.3	27.2	1.1
	細川地区（N=33）	21.2	12.1	6.1	0.0	12.1	0.0	3.0	21.2	3.0
	口吉川地区（N=28）	14.3	14.3	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
	緑が丘地区（N=171）	15.8	5.8	9.4	1.2	3.5	0.0	5.3	30.4	3.5
	自由が丘地区（N=227）	12.3	5.7	8.8	1.3	4.4	0.0	3.5	27.3	2.6
	青山地区（N=114）	20.2	1.8	14.0	0.9	3.5	0.0	3.5	29.8	0.9
	吉川地区（N=129）	18.6	10.1	9.3	0.0	2.3	0.0	3.1	27.9	3.9

問４　ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要と思う時がありますか。

◆「ある」が 23.8%、「ない」が 69.5%となっています。
◆前回調査と比べると、「ない」が減少しています。
◆年齢別にみると、30・40 歳代で「ある」が多くなっています。

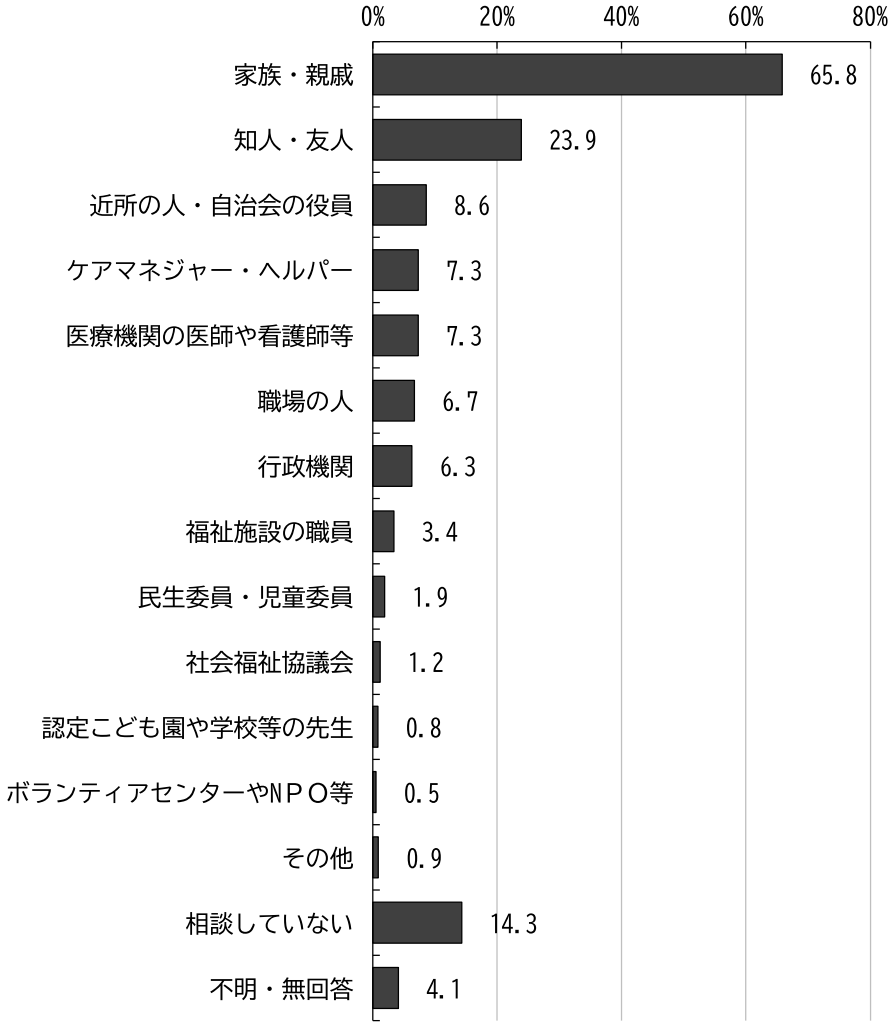


単位：%		ある	ない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		23.8	69.5	6.7
年齢別	10歳代（N=16）	6.3	93.8	0.0
	20歳代（N=63）	19.0	79.4	1.6
	30歳代（N=92）	33.7	64.1	2.2
	40歳代（N=132）	37.1	62.1	0.8
	50歳代（N=206）	20.4	76.7	2.9
	60歳～64歳（N=137）	19.0	78.8	2.2
	65歳～74歳（N=297）	18.9	77.8	3.4
	75歳以上（N=389）	28.5	65.3	6.2

問５　ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったとき、どこに相談していますか。【複数回答】

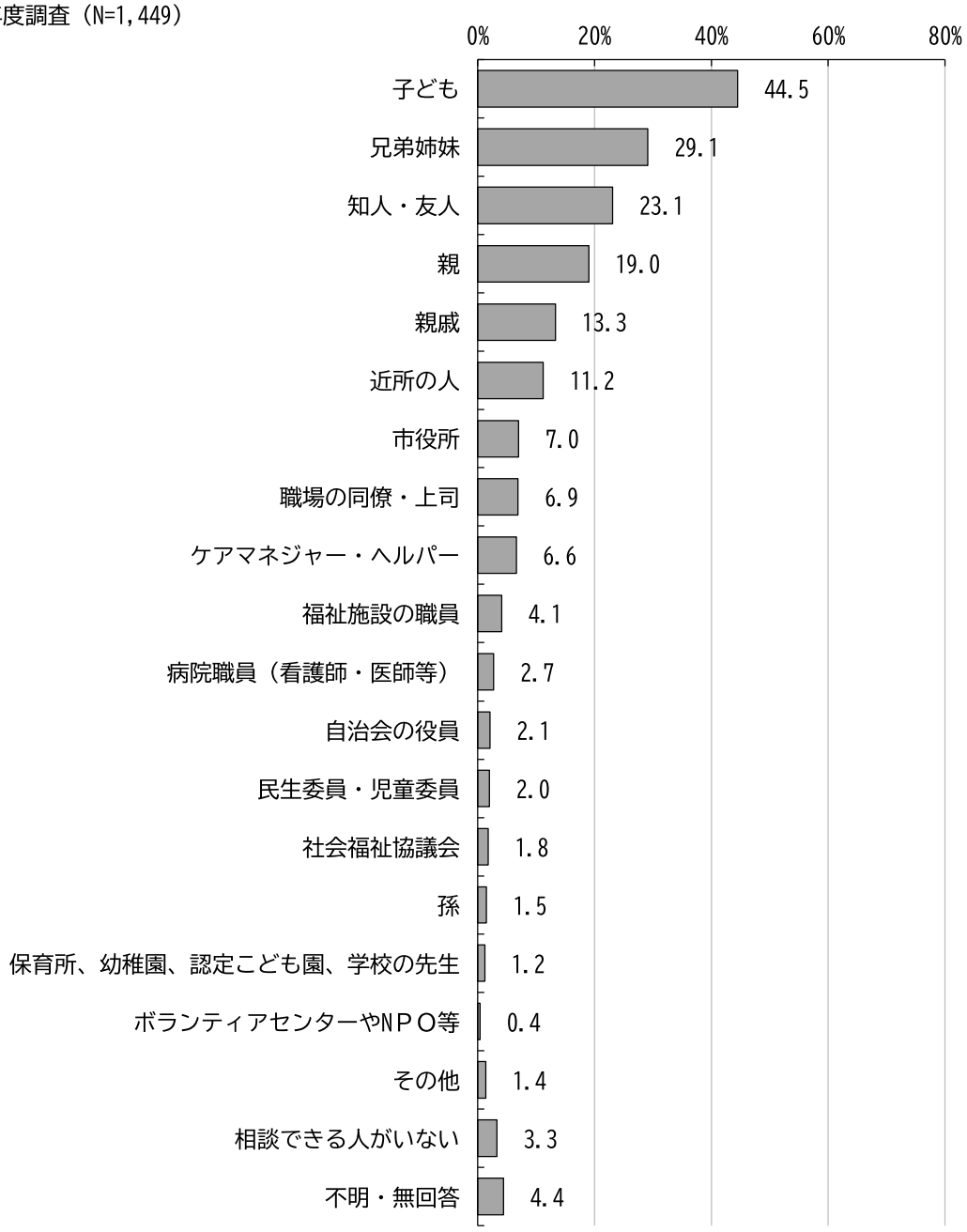
◆「家族・親戚」が 65.8％と最も多く、次いで「知人・友人」が 23.9％、「相談していない」が 14.3％となっています。

令和７年度調査（N=1,378）



【参考】前回調査結果

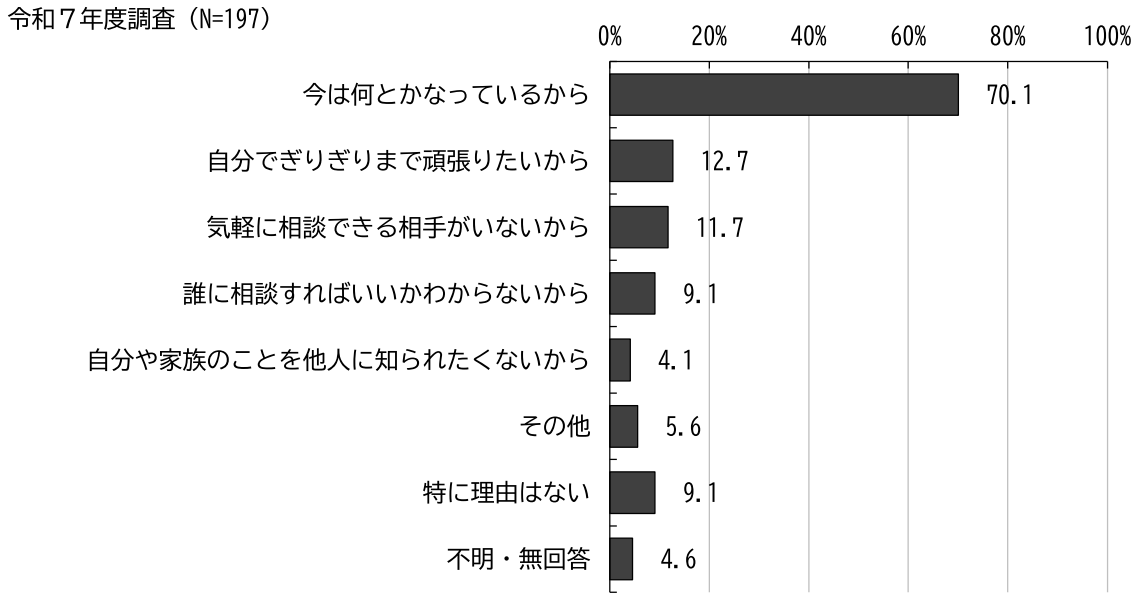
令和２年度調査（N=1,449）



問５で「相談していない」と回答された方のみ

問５－１　あなたが相談していない（しない）理由は何ですか。【複数回答】

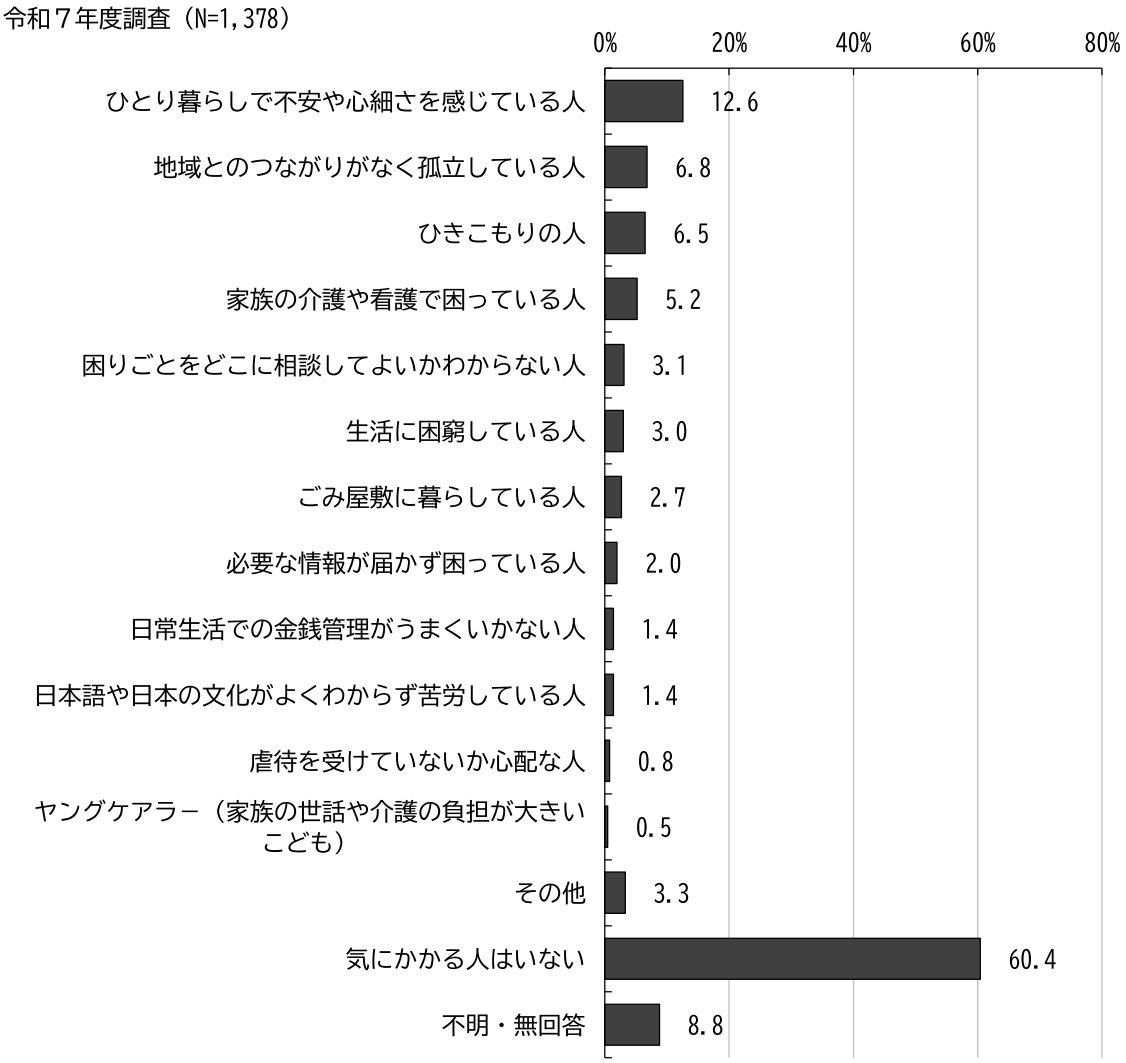
◆「今は何とかなっているから」が 70.1％と最も多く、次いで「自分でぎりぎりまで頑張りたいから」が 12.7％、「気軽に相談できる相手がいないから」が 11.7％となっています。



３．住民同士の助け合いについて

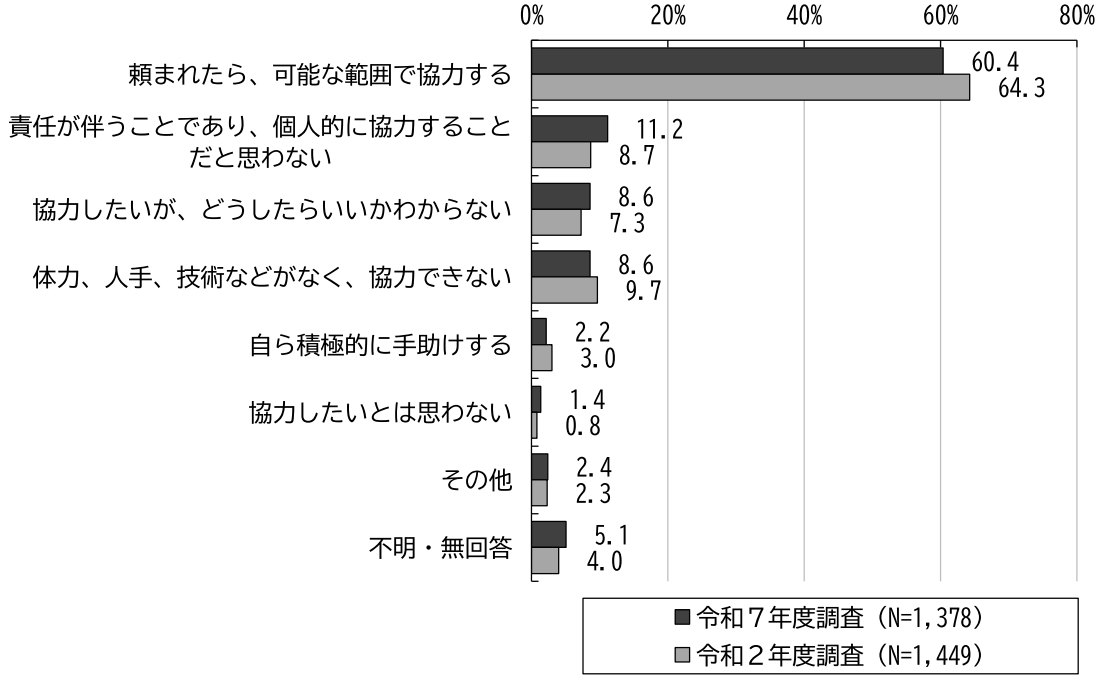
問６　あなた自身も含め、あなたの近所や地域には、次のような気にかかる人（支援が必要そうな人）がいますか。【複数回答】

◆「気にかかる人はいない」が 60.4％と最も多く、次いで「ひとり暮らしで不安や心細さを感じている人」が 12.6％、「地域とのつながりがなく孤立している人」が 6.8％となっています。



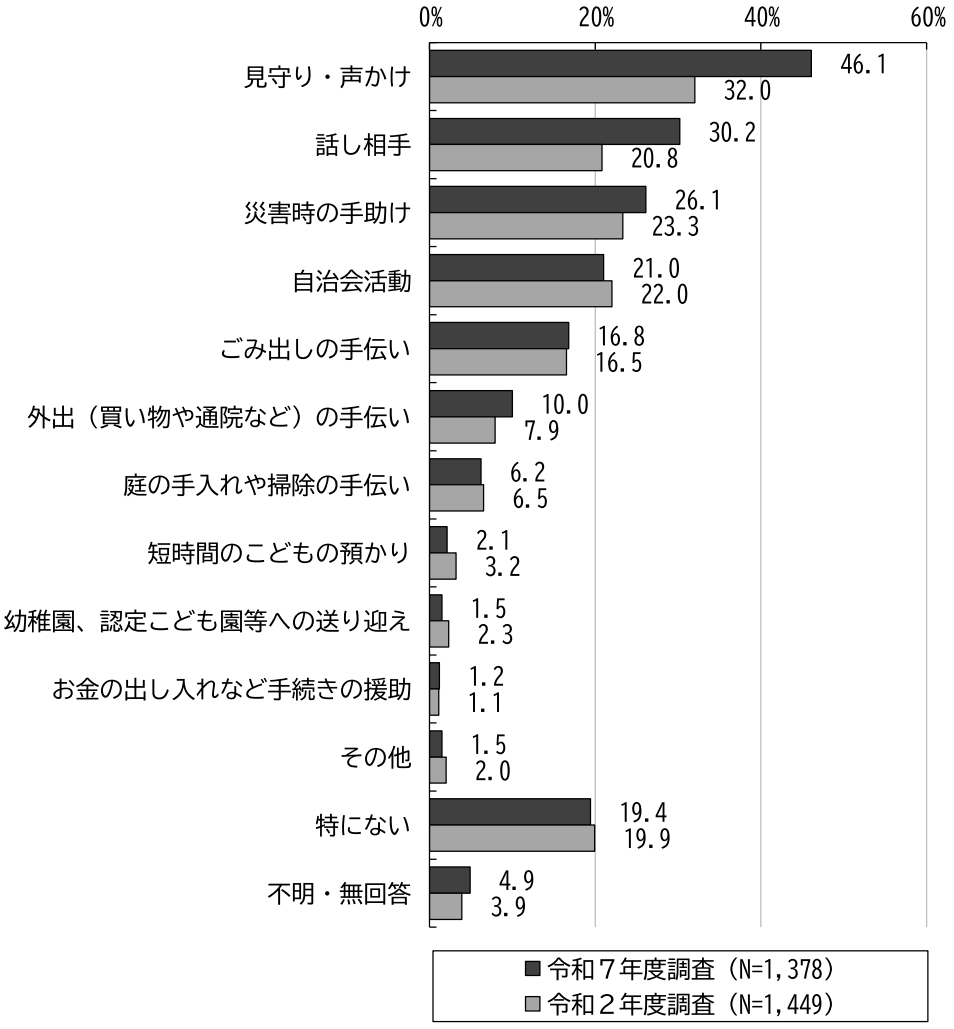
問７　近所に、身の回りのことや家事、外出などで困っている人がいる場合、あなたならどうしますか。

◆「頼まれたら、可能な範囲で協力する」が 60.4％と最も多く、次いで「責任が伴うことであり、個人的に協力することだと思わない」が 11.2％、「協力したいが、どうしたらいいかわからない」が 8.6％となっています。



問８　あなたが、地域でできる手助けは何ですか。【複数回答】

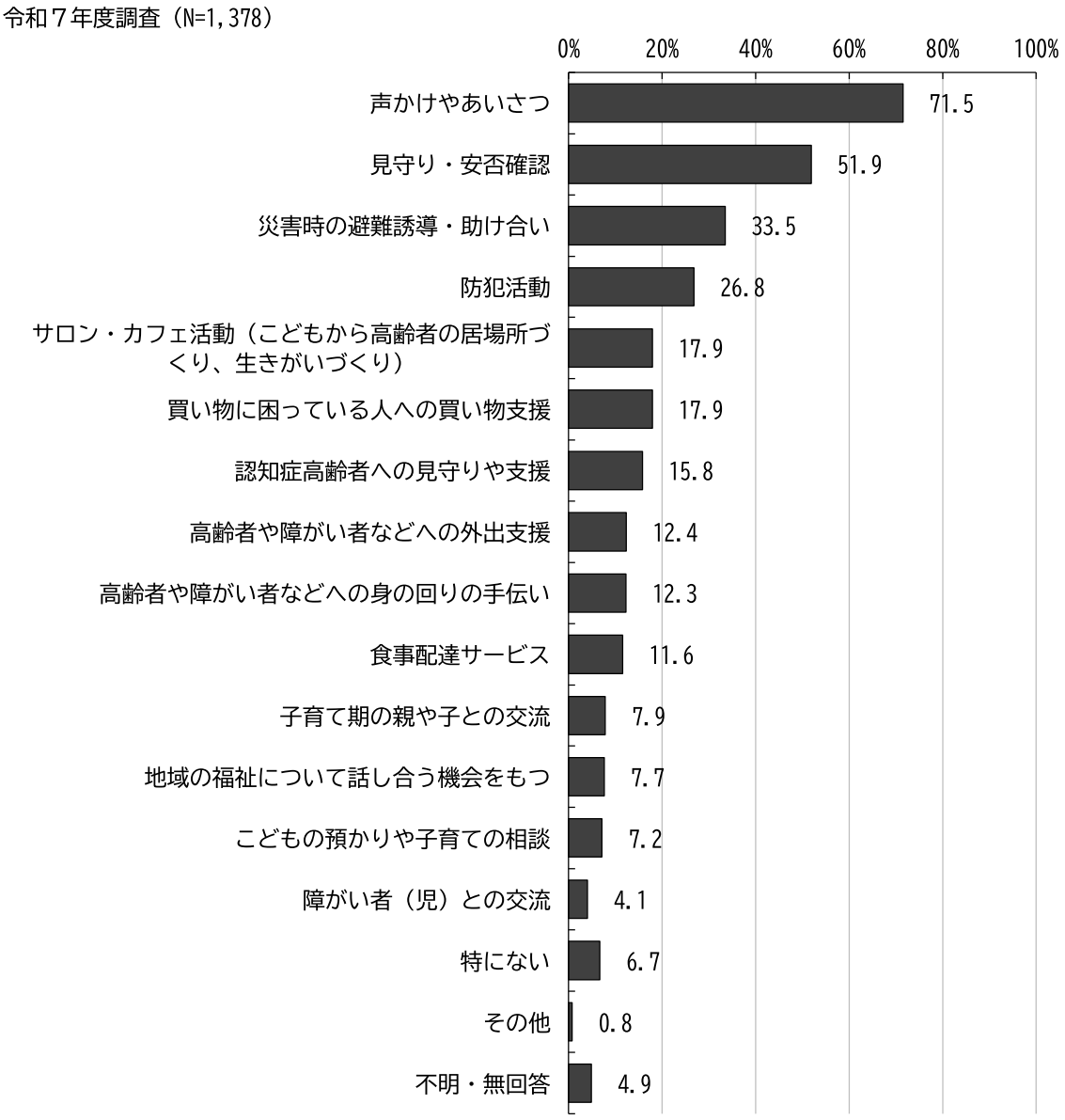
◆「見守り・声かけ」が 46.1％と最も多く、次いで「話し相手」が 30.2％、「災害時の手助け」が 26.1％となっています。
◆前回調査と比べると、「見守り・声かけ」「話し相手」が増加しています。
◆年齢別にみると、10 歳代では「見守り・声かけ」「話し相手」が半数を占め、最も多くなっています。20 歳代では「特にない」が最も多くなっています。50 歳代、60 歳～64 歳、65 歳～74 歳は「自治会活動」が２割後半～３割と全体と比較して多くなっています。



単位：%		見守り・声かけ	話し相手	外出（買い物や通院など）の手伝い	災害時の手助け	ごみ出しの手伝い	短時間のこどもの預かり	庭の手入れや掃除の手伝い	幼稚園、認定こども園等への送り迎え	自治会活動	お金の出し入れなど手続きの援助	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		46.1	30.2	10.0	26.1	16.8	2.1	6.2	1.5	21.0	1.2	1.5	19.4	4.9
年齢別	10歳代（N=16）	50.0	50.0	18.8	37.5	31.3	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
	20歳代（N=63）	31.7	23.8	12.7	30.2	14.3	4.8	7.9	4.8	3.2	0.0	0.0	34.9	1.6
	30歳代（N=92）	46.7	19.6	8.7	32.6	21.7	1.1	7.6	1.1	17.4	1.1	0.0	20.7	2.2
	40歳代（N=132）	53.0	22.0	6.8	29.5	11.4	3.0	4.5	1.5	15.2	0.8	0.8	22.0	2.3
	50歳代（N=206）	52.9	29.1	11.7	32.5	15.5	2.9	6.3	2.4	30.6	1.9	1.5	17.0	0.0
	60歳～64歳（N=137）	43.8	27.0	10.2	32.1	15.3	1.5	2.9	1.5	27.0	0.7	1.5	16.8	2.2
	65歳～74歳（N=297）	51.9	33.7	12.5	27.6	17.2	1.7	7.4	0.7	26.6	2.4	1.3	15.8	5.1
	75歳以上（N=389）	38.0	35.0	7.7	13.9	17.0	1.8	6.4	0.8	16.2	0.5	2.6	22.4	9.3

問９　誰もが住みなれた地域の中で安心して暮らせるためには、どのような住民同士の助け合い活動が必要だと思いますか。【複数回答】

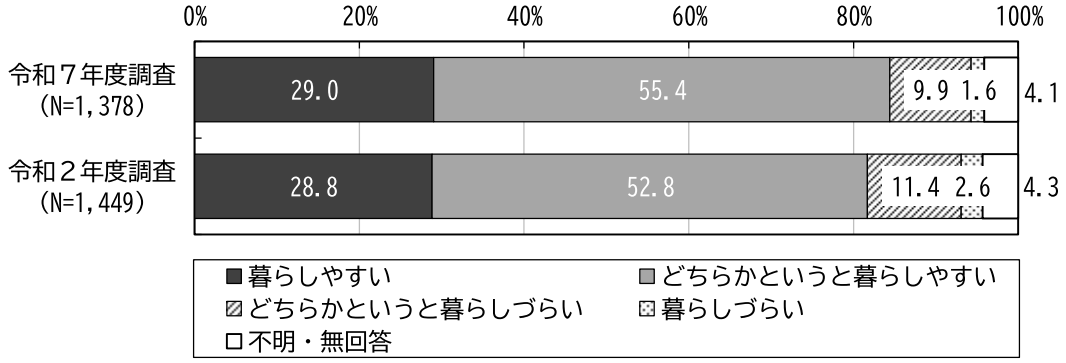
◆「声かけやあいさつ」が 71.5％と最も多く、次いで「見守り・安否確認」が 51.9％、「災害時の避難誘導・助け合い」が 33.5％となっています。



問10　お住まいの地域は暮らしやすいですか。

◆「どちらかというと暮らしやすい」が55.4%と最も多く、次いで「暮らしやすい」が29.0%、「どちらかというと暮らしづらい」が9.9%となっています。

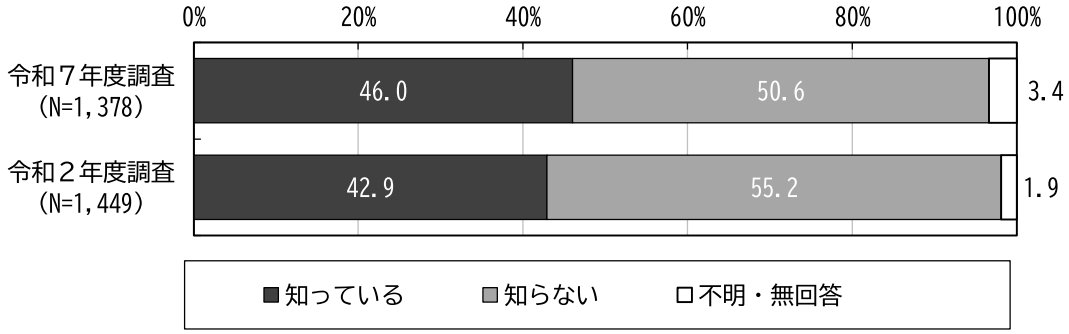
◆前回調査と比べると、否定的な回答（「どちらかというと暮らしづらい」または「暮らしづらい」）がやや減少しています。



４．民生委員・児童委員、社会福祉協議会について

問 11　あなたは、自分の地区の民生委員・児童委員を知っていますか。

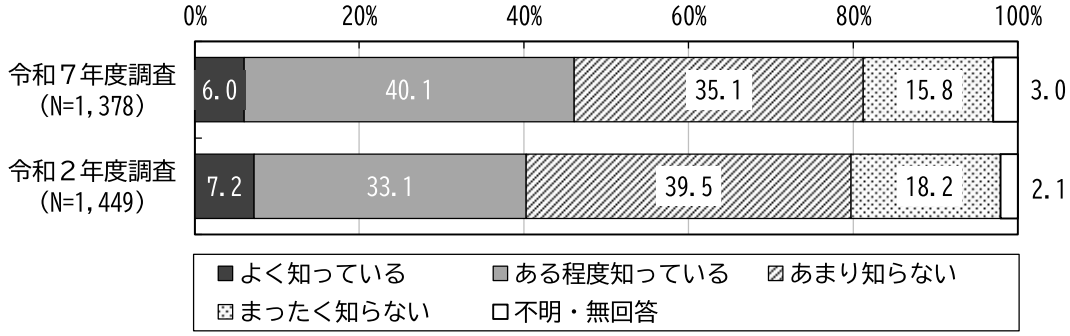
◆「知っている」が 46.0%、「知らない」が 50.6%となっています。
◆前回調査と比べると、「知っている」が増加しています。
◆年齢別にみると、「知っている」は年齢が上がるほど多くなっています。



単位：%		知っている	知らない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		46.0	50.6	3.4
年齢別	10歳代（N=16）	6.3	81.3	12.5
	20歳代（N=63）	11.1	85.7	3.2
	30歳代（N=92）	23.9	72.8	3.3
	40歳代（N=132）	31.1	68.2	0.8
	50歳代（N=206）	39.8	58.7	1.5
	60歳～64歳（N=137）	43.8	55.5	0.7
	65歳～74歳（N=297）	58.9	38.4	2.7
	75歳以上（N=389）	58.9	36.2	4.9

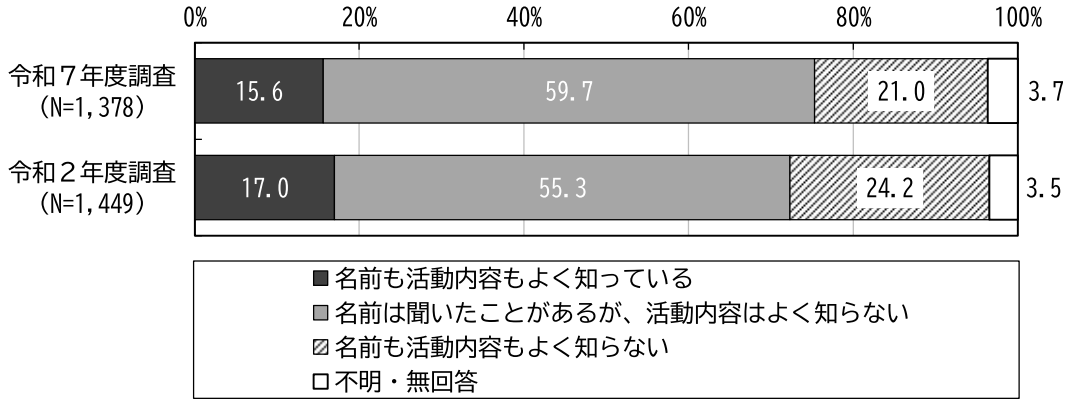
問 12　あなたは、民生委員・児童委員の役割を知っていますか。

◆「ある程度知っている」が 40.1%と最も多く、次いで「あまり知らない」が 35.1%、「まったく知らない」が 15.8%となっています。
◆前回調査と比べると、肯定的な回答（「よく知っている」と「ある程度知っている」の計）が増加しています。



問 13　あなたは、「三木市社会福祉協議会」の活動について知っていますか。

◆「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が 59.7%と最も多く、次いで「名前も活動内容もよく知らない」が 21.0%、「名前も活動内容もよく知っている」が 15.6%となっています。
◆前回調査と比べると、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が増加し、「名前も活動内容もよく知らない」が減少しています。
◆年齢別にみると、「名前も活動内容もよく知らない」は若い年代ほど高くなっています。



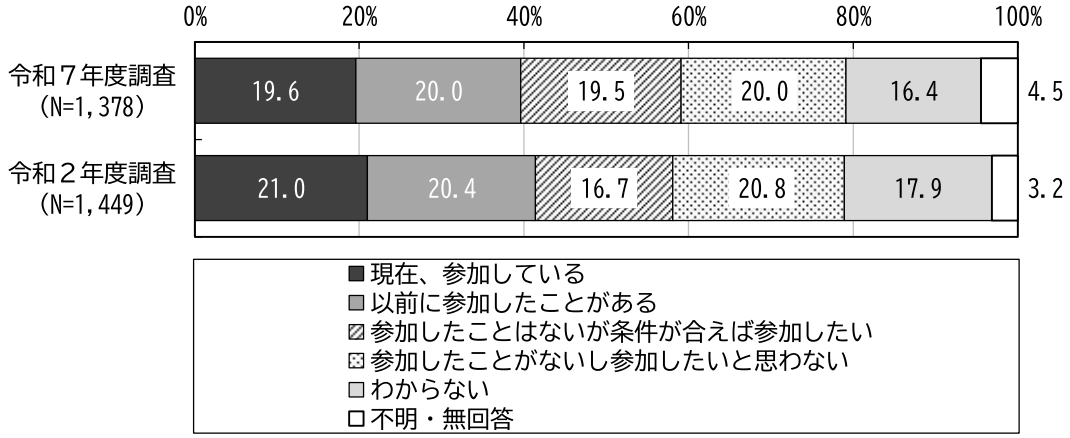
単位：%		名前も活動内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	名前も活動内容もよく知らない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		15.6	59.7	21.0	3.7
年齢別	10歳代（N=16）	0.0	37.5	50.0	12.5
	20歳代（N=63）	7.9	41.3	47.6	3.2
	30歳代（N=92）	10.9	39.1	46.7	3.3
	40歳代（N=132）	6.1	52.3	40.2	1.5
	50歳代（N=206）	9.7	65.0	24.3	1.0
	60歳～64歳（N=137）	14.6	65.7	19.0	0.7
	65歳～74歳（N=297）	24.2	60.3	12.5	3.0
	75歳以上（N=389）	18.5	66.1	9.8	5.7

５．地域活動やボランティア活動などについて

問 14　あなたは、地区での地域活動やボランティア活動に参加していますか。

◆「以前に参加したことがある」「参加したことがないし参加したいと思わない」が 20.0％と最も多く、次いで「現在、参加している」が 19.6％となっています。

◆年齢別にみると、60 歳～64 歳、65 歳～74 歳では「現在、参加している」が最も多くなっています。「参加したことがないし参加したいと思わない」は 10 歳代を除いて、若い年代ほど多くなっています。

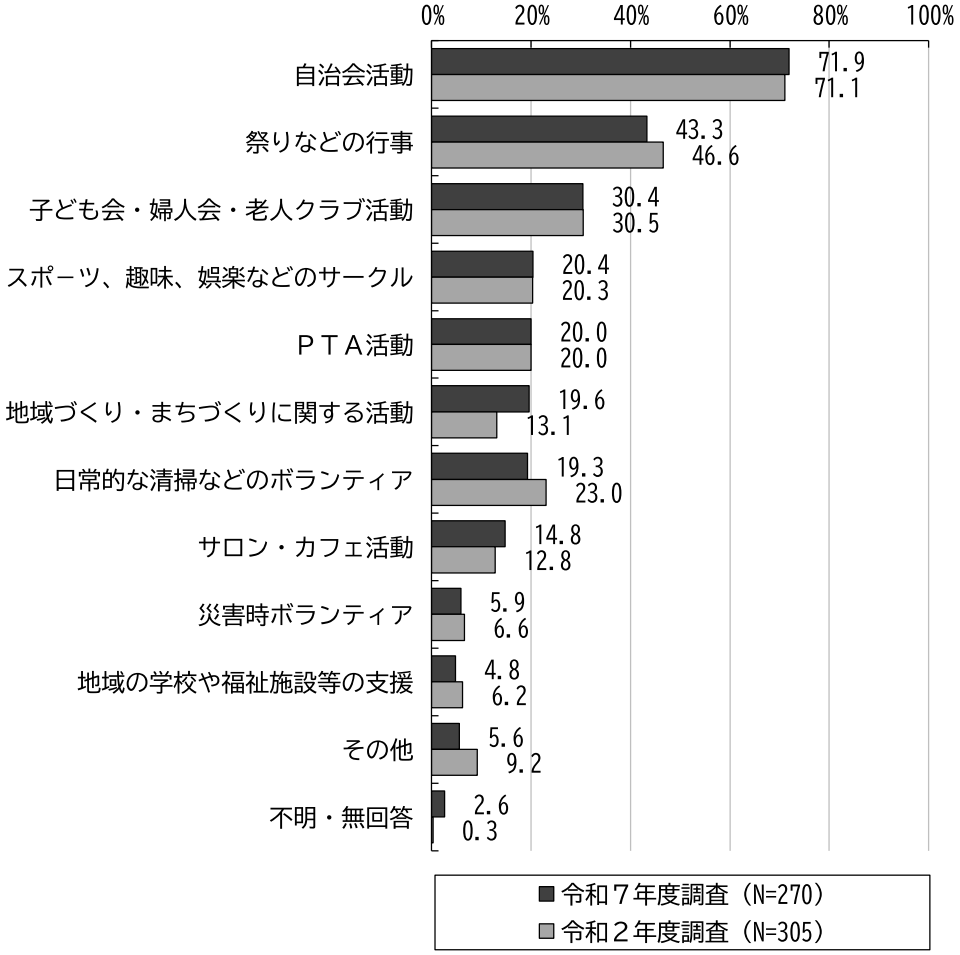


単位：％		現在、参加している	以前に参加したことがある	参加したことはないが条件が合えば参加したい	参加したことがないし参加したいと思わない	わからない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		19.6	20.0	19.5	20.0	16.4	4.5
年齢別	10歳代（N=16）	12.5	18.8	12.5	18.8	25.0	12.5
	20歳代（N=63）	1.6	15.9	20.6	33.3	25.4	3.2
	30歳代（N=92）	9.8	12.0	27.2	34.8	13.0	3.3
	40歳代（N=132）	15.9	12.1	25.8	31.8	13.6	0.8
	50歳代（N=206）	16.0	15.5	26.2	21.4	18.0	2.9
	60歳～64歳（N=137）	30.7	21.2	17.5	15.3	13.9	1.5
	65歳～74歳（N=297）	26.3	22.9	20.5	12.5	14.8	3.0
	75歳以上（N=389）	19.8	26.0	12.1	18.0	17.0	7.2

問 14 で「現在、参加している」と回答された方のみ

問 14－１　どのような地域活動やボランティア活動に参加していますか。または、過去にどのような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。【複数回答】

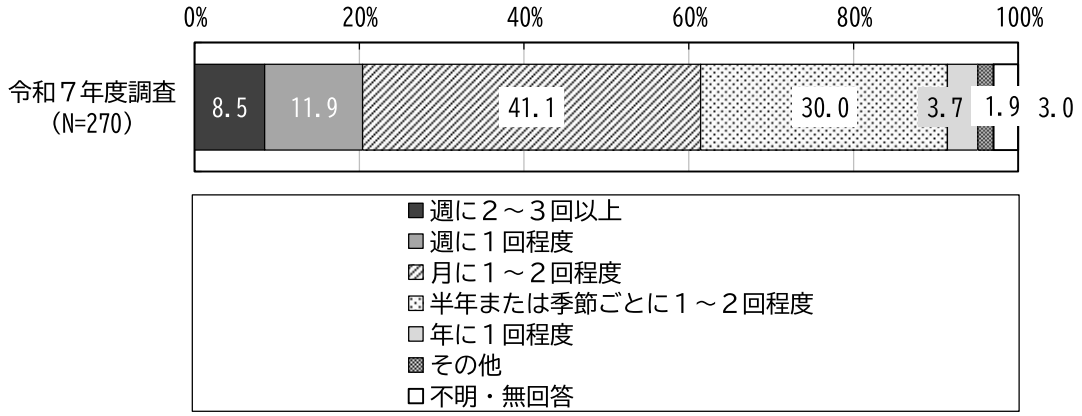
◆「自治会活動」が 71.9％と最も多く、次いで「祭りなどの行事」が 43.3％、「子ども会・婦人会・老人クラブ活動」が 30.4％となっています。



問 14 で「現在、参加している」と回答された方のみ

問 14－２　現在参加している地域活動やボランティア活動にどの程度参加していますか。

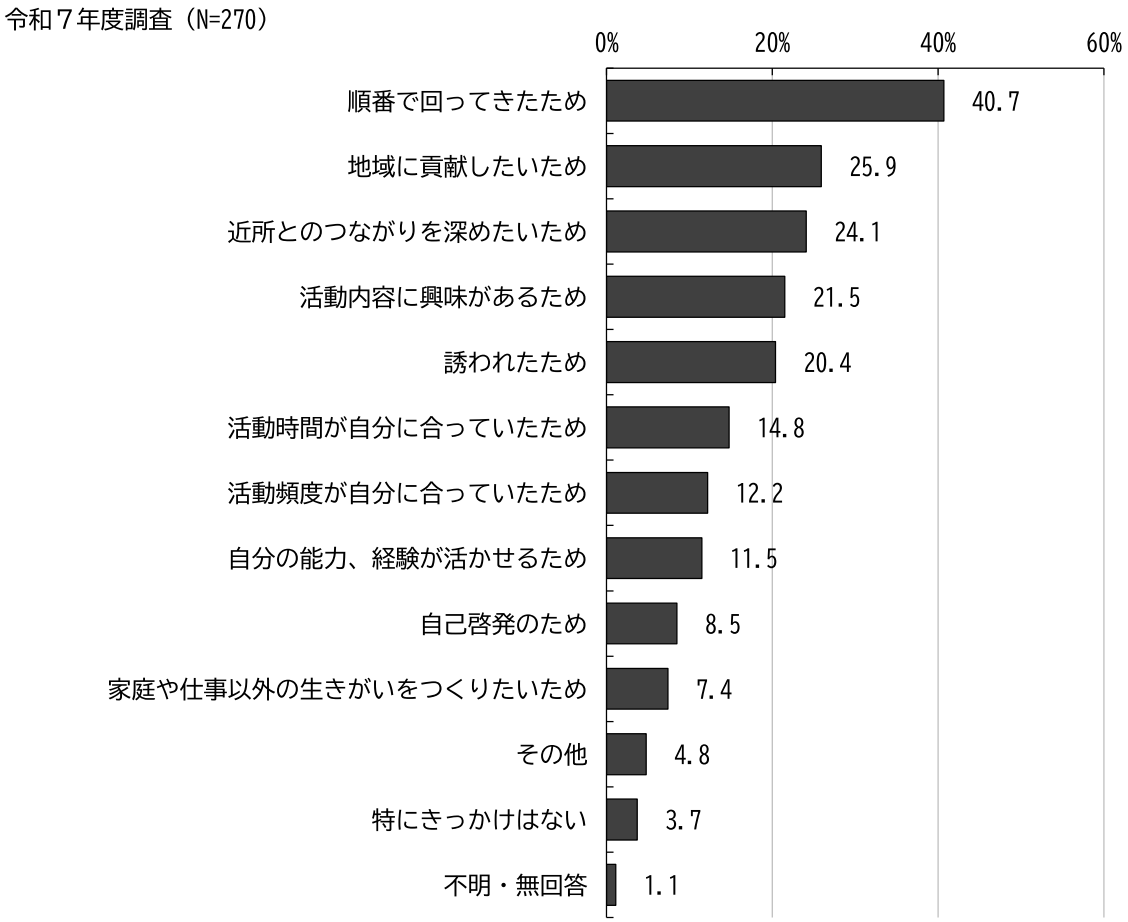
◆「月に１～２回程度」が 41.1％と最も多く、次いで「半年または季節ごとに１～２回程度」が 30.0％、「週に１回程度」が 11.9％となっています。



問 14 で「現在、参加している」と回答された方のみ

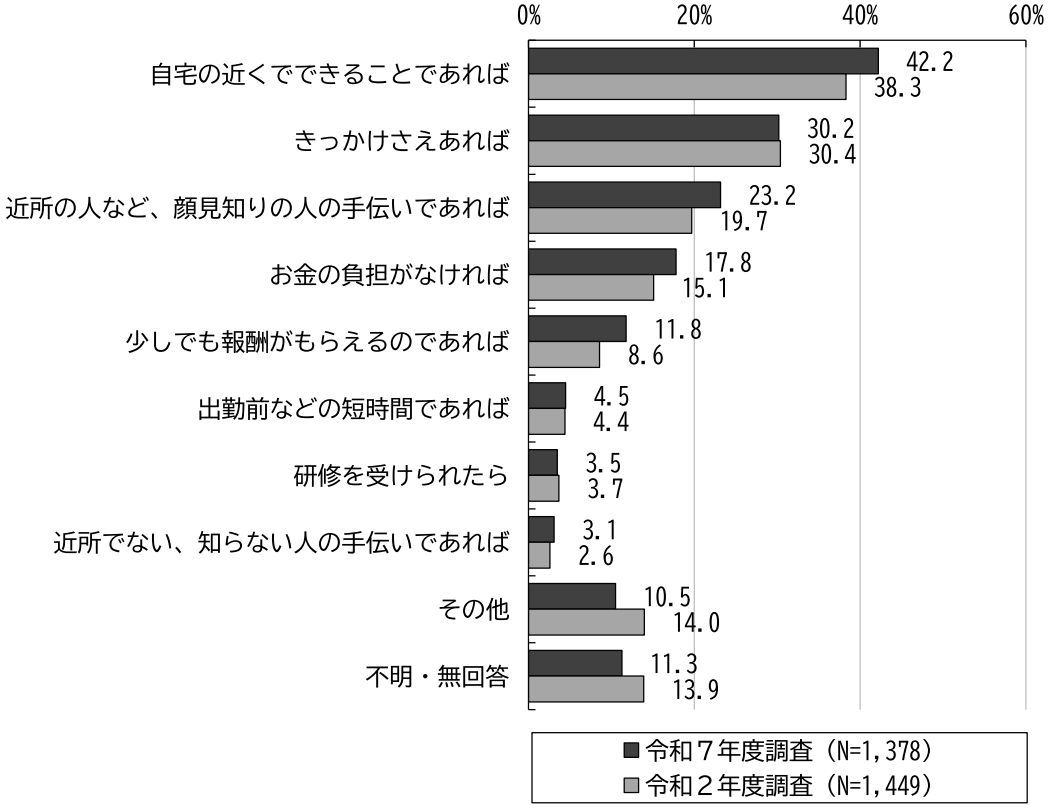
問14－３　あなたが､現在の地域活動やボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。【複数回答】

◆「順番で回ってきたため」が 40.7%と最も多く、次いで「地域に貢献したいため」が 25.9%、「近所とのつながりを深めたいため」が 24.1%となっています。



問 15　どのような条件であれば地域活動やボランティア活動に参加できますか。【複数回答】

◆「自宅の近くでできることであれば」が 42.2％と最も多く、次いで「きっかけさえあれば」が 30.2％、「近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば」が 23.2％となっています。
◆前回調査と比べると、「自宅の近くでできることであれば」「近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば」「少しでも報酬がもらえるのであれば」が増加しています。
◆年齢別にみると、30 歳代では「お金の負担がなければ」「少しでも報酬がもらえるのであれば」が２番目に多くなっています。
◆地域別にみると、細川地区、口吉川地区では「近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば」が２番目に多くなっています。

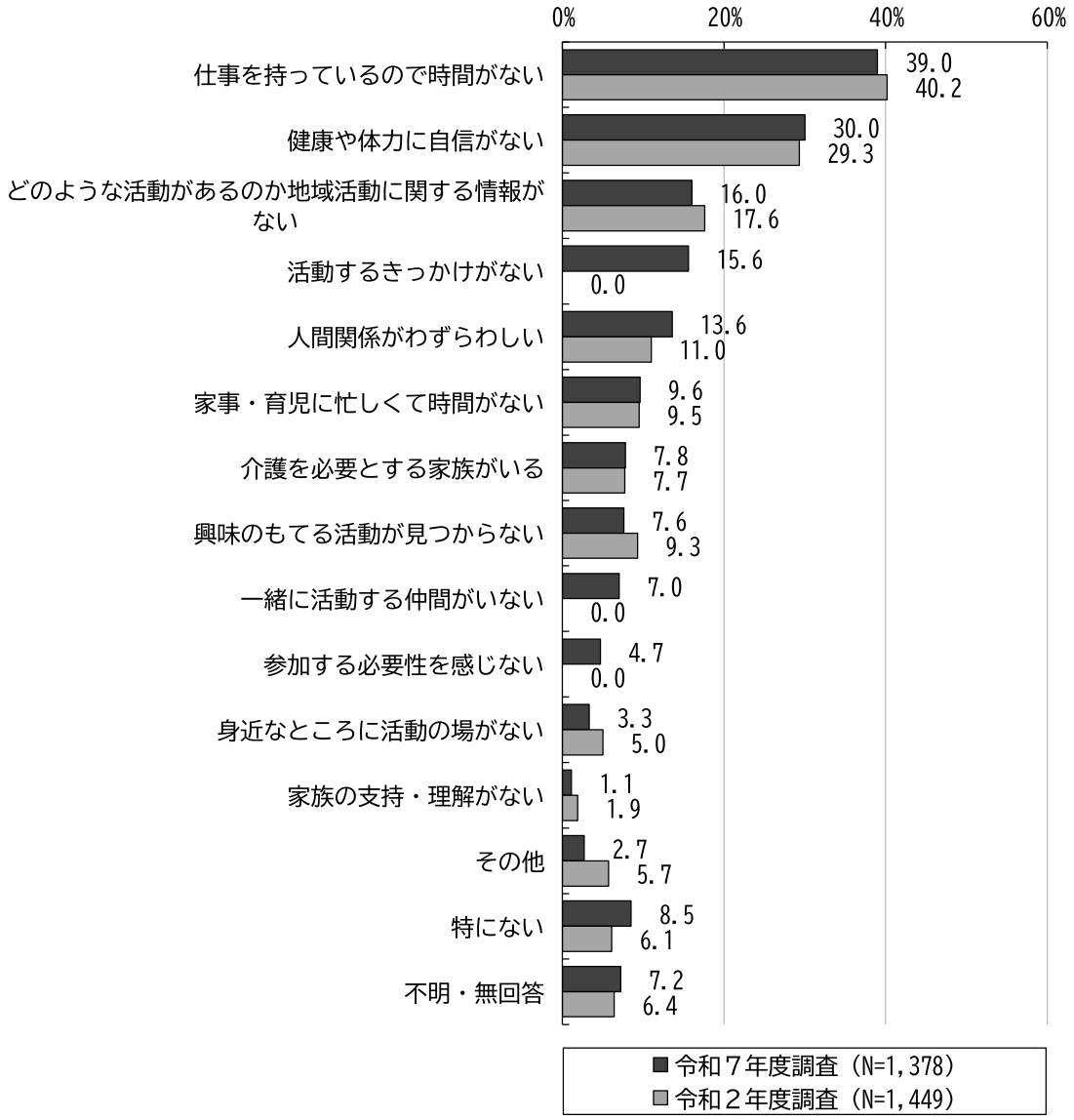


単位：%		きっかけさえあれば	出勤前などの短時間であれば	自宅の近くでできることであれば	研修を受けられたら	近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば	近所でない、知らない人の手伝いであれば	お金の負担がなければ	少しでも報酬がもらえるのであれば	その他	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		30.2	4.5	42.2	3.5	23.2	3.1	17.8	11.8	10.5	11.3
年齢別	10歳代（N=16）	37.5	12.5	37.5	0.0	12.5	6.3	37.5	25.0	0.0	18.8
	20歳代（N=63）	33.3	9.5	30.2	4.8	14.3	6.3	20.6	28.6	6.3	6.3
	30歳代（N=92）	32.6	10.9	44.6	2.2	17.4	6.5	34.8	34.8	5.4	5.4
	40歳代（N=132）	31.8	6.8	27.3	3.8	15.9	3.8	22.7	22.0	13.6	4.5
	50歳代（N=206）	33.5	8.7	39.3	2.9	24.8	3.4	22.3	15.0	12.6	5.3
	60歳～64歳（N=137）	23.4	4.4	41.6	3.6	21.9	2.2	20.4	10.9	9.5	6.6
	65歳～74歳（N=297）	35.0	2.4	49.8	5.7	30.3	2.0	15.8	5.4	7.1	10.1
	75歳以上（N=389）	24.7	0.8	46.0	1.8	23.1	2.6	10.0	3.9	13.9	19.8
地域別	三木地区（N=331）	31.1	5.7	43.5	2.7	22.1	4.5	19.9	12.7	8.8	12.7
	三木南地区（N=61）	31.1	3.3	41.0	1.6	27.9	0.0	23.0	9.8	8.2	6.6
	別所地区（N=115）	33.0	6.1	42.6	1.7	25.2	7.0	21.7	13.0	11.3	10.4
	志染地区（N=92）	31.5	4.3	42.4	6.5	21.7	2.2	14.1	10.9	15.2	10.9
	細川地区（N=33）	30.3	6.1	48.5	3.0	36.4	0.0	12.1	15.2	6.1	15.2
	口吉川地区（N=28）	32.1	0.0	42.9	3.6	39.3	7.1	7.1	3.6	7.1	14.3
	緑が丘地区（N=171）	31.0	7.6	45.6	3.5	29.8	1.2	15.2	10.5	11.1	7.6
	自由が丘地区（N=227）	25.6	3.5	40.5	2.2	19.4	2.6	18.5	11.0	13.2	11.9
	青山地区（N=114）	26.3	3.5	42.1	7.0	14.0	2.6	19.3	15.8	9.6	9.6
	吉川地区（N=129）	31.8	1.6	41.9	2.3	23.3	3.9	15.5	11.6	8.5	11.6

問 16　あなたが地域活動やボランティア活動に参加するうえで、支障になることがありますか。【複数回答】

◆「仕事を持っているので時間がない」が 39.0％と最も多く、次いで「健康や体力に自信がない」が 30.0％、「どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない」が 16.0％となっています。

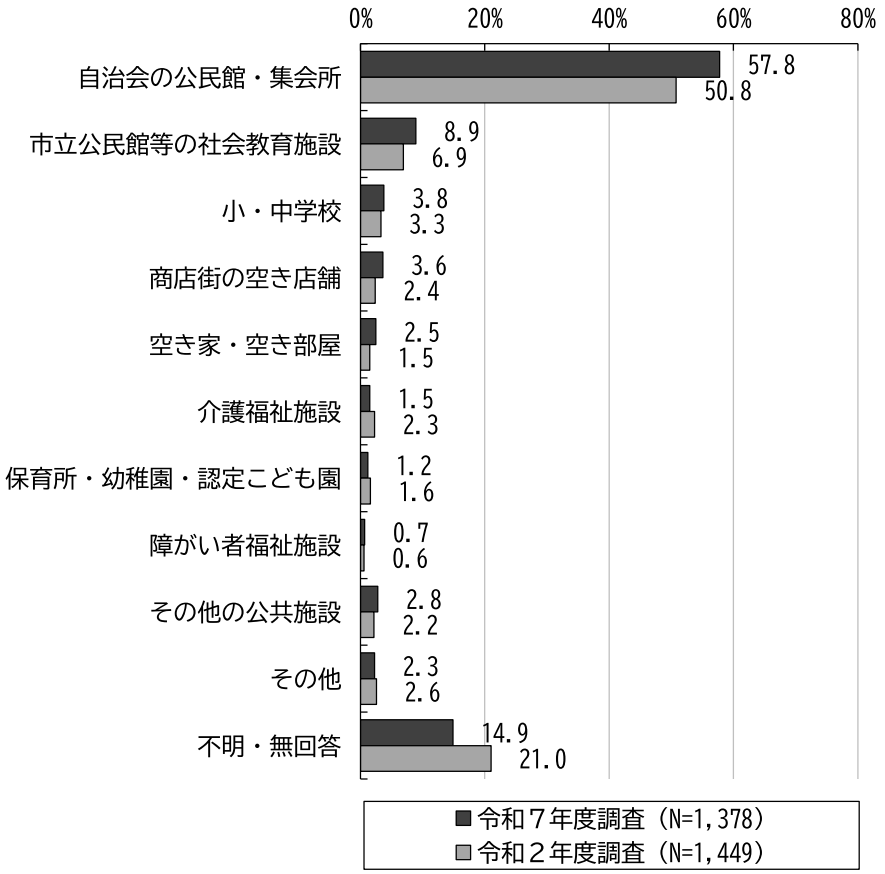
◆年齢別にみると、20 歳代～50 歳代、60 歳～64 歳は「仕事を持っているので時間がない」が半数以上を占めています。20 歳代では「活動するきっかけがない」が２番目に多くなっています。65 歳以上では、「健康や体力に自信がない」が最も多くなっています。



単位：%		仕事を持っているので時間がない	家事・育児に忙しくて時間がない	家族の支持・理解がない	介護を必要とする家族がいる	健康や体力に自信がない	どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない	人間関係がわずらわしい	身近なところに活動の場がない	興味のもてる活動が見つからない	一緒に活動する仲間がいない	活動するきっかけがない	参加する必要性を感じない	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		39.0	9.6	1.1	7.8	30.0	16.0	13.6	3.3	7.6	7.0	15.6	4.7	2.7	8.5	7.2
年齢別	10歳代（N=16）	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	6.3	12.5	18.8	18.8	0.0	0.0	6.3	25.0
	20歳代（N=63）	54.0	7.9	0.0	0.0	7.9	17.5	11.1	6.3	12.7	11.1	27.0	6.3	0.0	11.1	4.8
	30歳代（N=92）	60.9	35.9	2.2	3.3	22.8	20.7	29.3	5.4	10.9	12.0	18.5	14.1	0.0	4.3	4.3
	40歳代（N=132）	68.9	46.2	2.3	4.5	14.4	21.2	26.5	3.0	12.9	10.6	15.2	7.6	3.0	0.8	1.5
	50歳代（N=206）	74.3	7.3	1.9	16.0	16.5	22.8	14.1	1.9	10.2	6.3	18.9	6.3	1.0	3.4	2.4
	60歳～64歳（N=137）	56.2	5.8	0.7	13.9	22.6	14.6	17.5	3.6	5.1	8.0	16.8	4.4	2.2	7.3	2.2
	65歳～74歳（N=297）	25.3	1.7	1.0	8.1	35.0	17.5	11.1	4.0	8.4	5.7	16.8	3.0	1.7	12.5	6.1
	75歳以上（N=389）	9.0	1.0	0.5	5.1	48.3	8.7	6.9	2.6	3.1	4.6	10.8	2.6	5.7	12.3	12.9

問 17　あなたは地域活動やボランティア活動の拠点としてどのようなところを活用するのがよいと思いますか。

◆「自治会の公民館･集会所」が57.8%と最も多く、次いで「市立公民館等の社会教育施設」が8.9%、「小・中学校」が3.8%となっています。



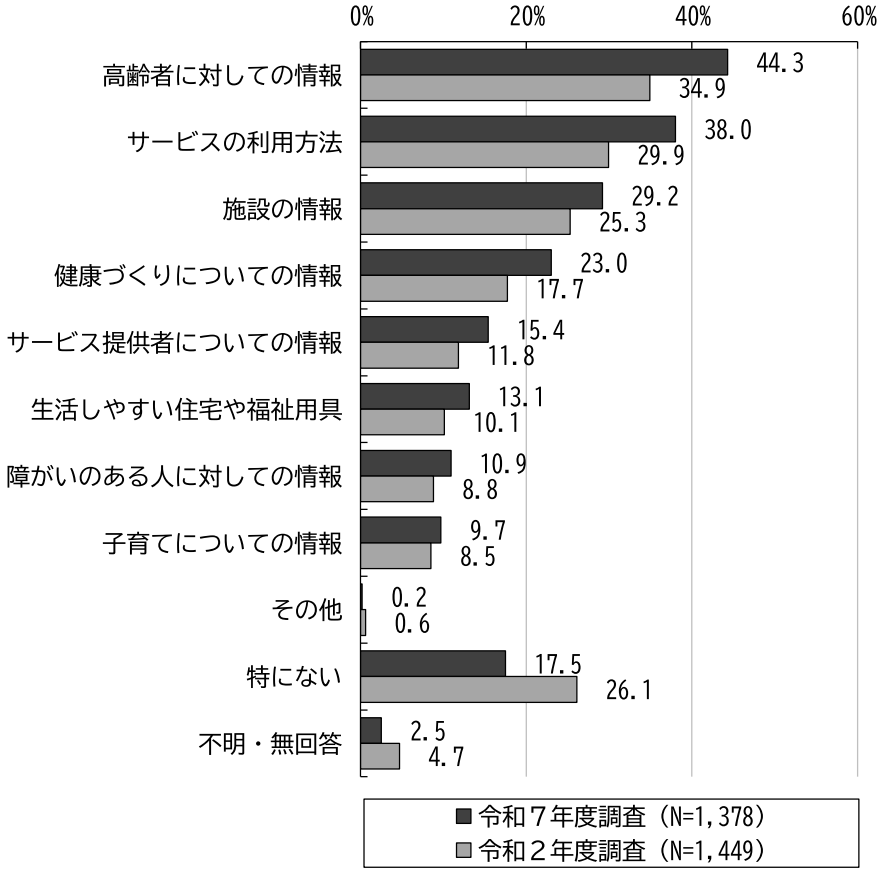
６．福祉サービスや地域の福祉について

問 18　福祉サービスについて、知りたい情報は何ですか。　【複数回答】

◆「高齢者に対しての情報」が 44.3%と最も多く、次いで「サービスの利用方法」が 38.0%、「施設の情報」が 29.2%となっています。

◆前回調査と比べると、「特にない」が減少し、知りたい情報についての回答がほとんどの項目で増加しています。

◆年齢別にみると、10 歳代では「施設の情報」「サービスの利用方法」、20 歳代では「特にない」、30 歳代・40 歳代では「子育てについての情報」、50 歳代では「サービスの利用方法」、60 歳以上では「高齢者に対しての情報」が最も多くなっています。

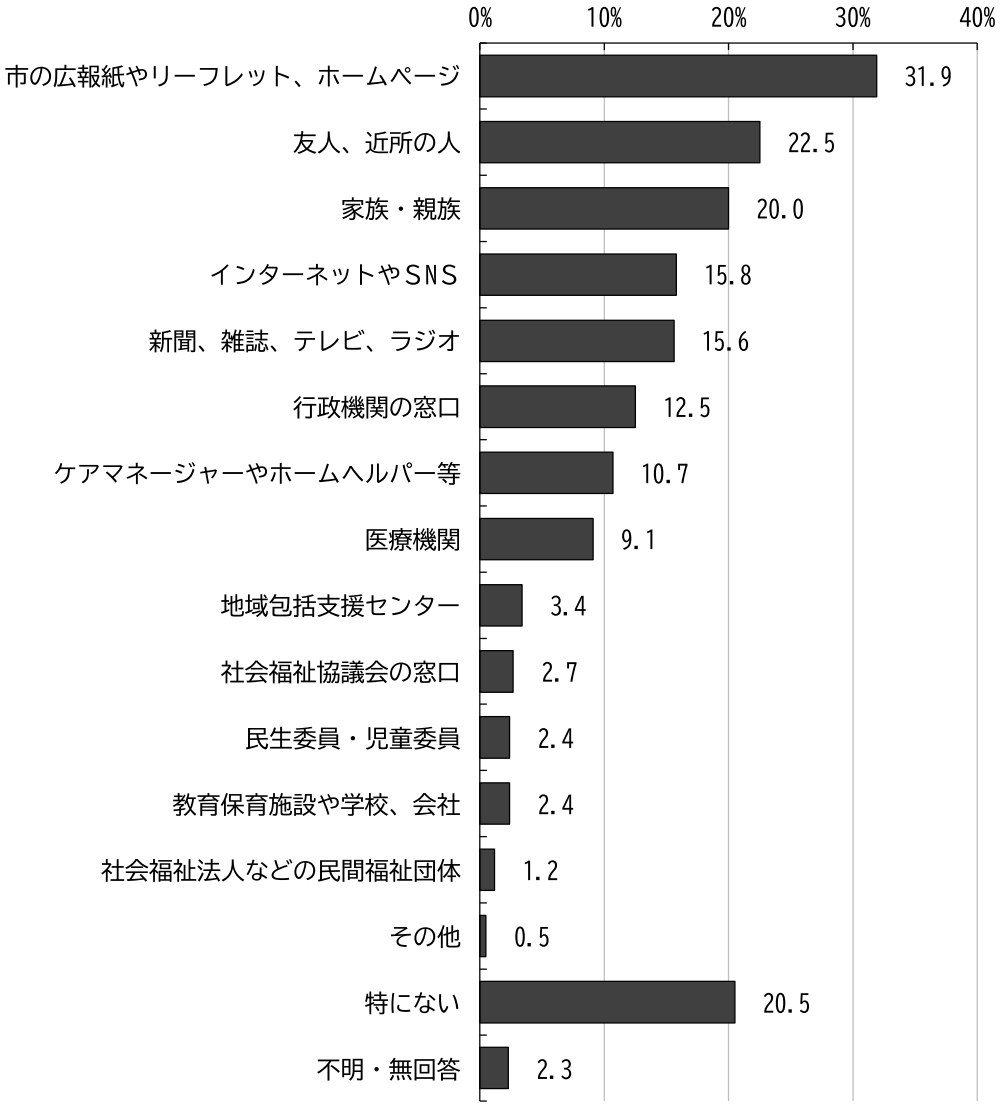


単位：%		高齢者に対しての情報	子育てについての情報	障がいのある人に対しての情報	健康づくりについての情報	サービス提供者についての情報	施設の情報	サービスの利用方法	生活しやすい住宅や福祉用具	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		44.3	9.7	10.9	23.0	15.4	29.2	38.0	13.1	0.2	17.5	2.5
年齢別	10歳代（N=16）	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	43.8	43.8	6.3	0.0	25.0	0.0
	20歳代（N=63）	15.9	20.6	6.3	22.2	12.7	17.5	23.8	11.1	0.0	36.5	1.6
	30歳代（N=92）	18.5	47.8	15.2	19.6	9.8	26.1	39.1	10.9	0.0	22.8	0.0
	40歳代（N=132）	25.8	33.3	9.8	18.9	12.1	31.1	31.8	11.4	0.8	20.5	0.0
	50歳代（N=206）	39.3	9.2	14.1	21.8	18.4	35.9	41.3	15.5	0.0	19.4	0.0
	60歳～64歳（N=137）	46.7	1.5	8.8	25.5	16.1	35.0	40.9	16.1	0.0	16.1	0.7
	65歳～74歳（N=297）	49.8	1.7	11.8	26.6	16.8	32.0	41.1	12.1	0.0	14.5	2.4
	75歳以上（N=389）	58.9	1.0	9.0	23.7	15.4	22.4	33.9	12.9	0.5	15.2	5.7

問19　福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。　【複数回答】

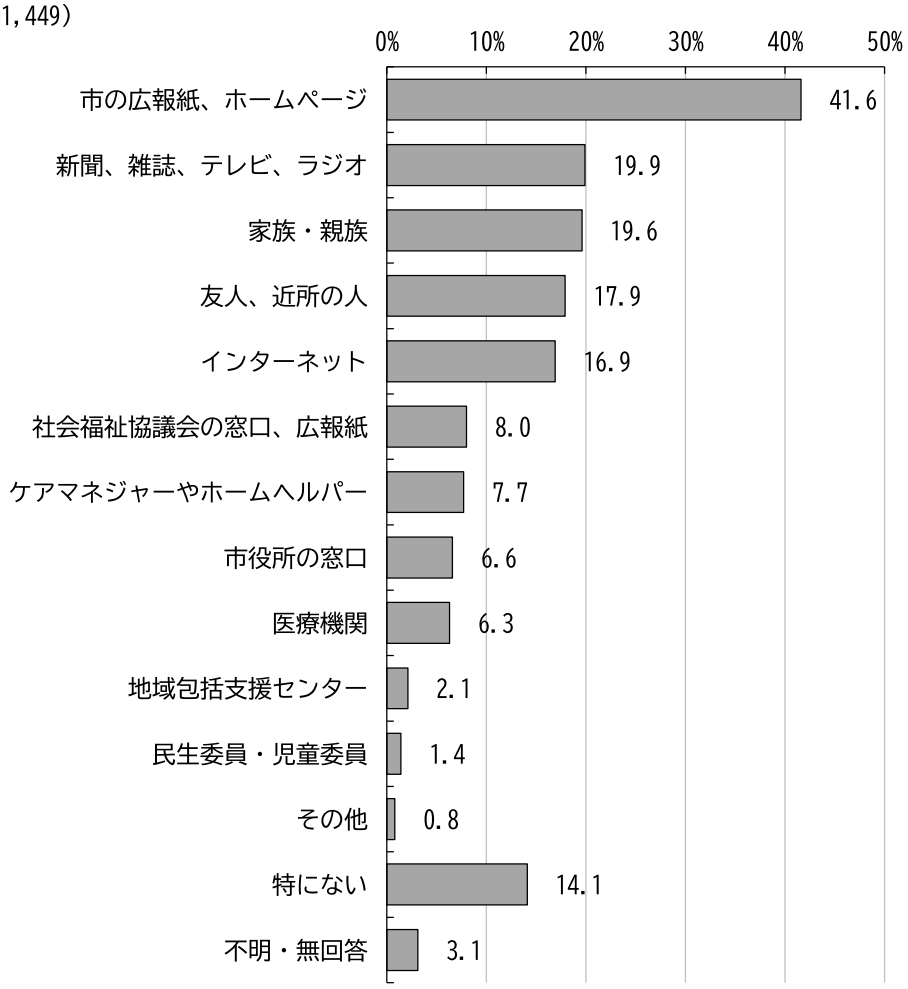
◆「市の広報紙やリーフレット、ホームページ」が31.9%と最も多く、次いで「友人、近所の人」が22.5%、「特にない」が20.5%となっています。
◆前回調査と比べると、「市の広報誌やリーフレット、ホームページ」が減少し、「特にない」が増加しています。
◆年齢別にみると、10歳代では「家族・親族」、20歳代では「家族・親族」「特にない」、30歳代では「インターネットやＳＮＳ」、40歳代では「特にない」、50歳代以上では「市の広報紙やリーフレット、ホームページ」が最も多くなっています。
◆地域別にみると、別所地区では「特にない」、細川地区では「友人、近所の人」その他の地区では「市の広報紙やリーフレット、ホームページ」が最も多くなっています。

令和７年度調査（N=1,378）



【参考】前回調査結果

令和２年度調査（N=1,449）

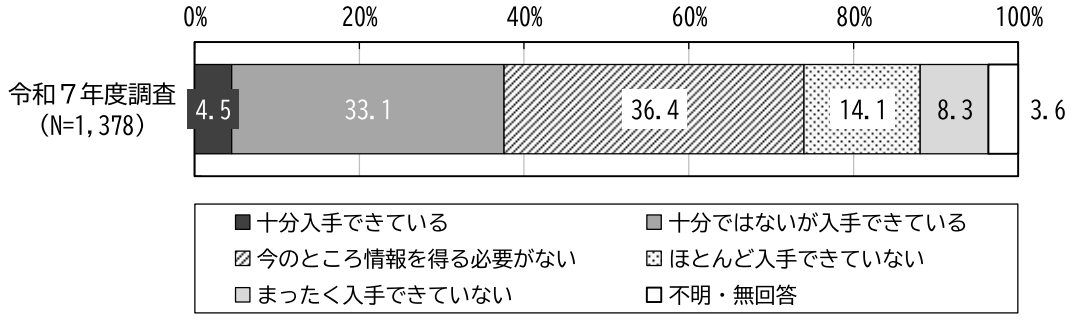


単位：%		家族・親族	友人、近所の人	行政機関の窓口	社会福祉協議会の窓口	地域包括支援センター	医療機関	ケアマネージャーやホームヘルパー等	社会福祉法人などの民間福祉団体	市の広報紙やリーフレット、ホームページ	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ	インターネットやSNS	民生委員・児童委員	教育保育施設や学校、会社	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		20.0	22.5	12.5	2.7	3.4	9.1	10.7	1.2	31.9	15.6	15.8	2.4	2.4	0.5	20.5	2.3
年齢別	10歳代（N=16）	43.8	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	12.5	18.8	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0
	20歳代（N=63）	33.3	7.9	6.3	0.0	1.6	6.3	1.6	3.2	15.9	0.0	23.8	0.0	3.2	0.0	33.3	0.0
	30歳代（N=92）	27.2	13.0	7.6	3.3	2.2	8.7	3.3	2.2	28.3	6.5	33.7	0.0	10.9	0.0	18.5	1.1
	40歳代（N=132）	25.8	13.6	9.8	1.5	1.5	10.6	3.8	0.0	23.5	5.3	23.5	0.8	9.1	0.0	29.5	0.0
	50歳代（N=206）	18.0	19.4	11.7	1.9	4.4	11.7	11.7	1.5	30.6	11.7	25.2	1.0	2.4	0.5	22.8	0.5
	60歳～64歳（N=137）	15.3	24.8	19.0	4.4	8.0	13.1	14.6	0.7	30.7	9.5	15.3	2.9	0.0	0.7	19.7	0.0
	65歳～74歳（N=297）	14.8	22.9	13.8	3.7	3.0	6.7	11.1	1.7	40.4	23.2	16.2	2.7	0.0	1.3	18.5	3.0
	75歳以上（N=389）	18.5	30.1	12.6	2.6	3.3	8.0	14.9	1.0	32.9	21.3	3.3	3.9	0.5	0.3	17.2	4.4
地域別	三木地区（N=331）	22.4	25.7	11.5	2.7	3.6	10.0	11.8	1.5	26.9	14.8	15.1	0.9	3.3	0.3	22.1	2.1
	三木南地区（N=61）	24.6	18.0	11.5	0.0	4.9	6.6	8.2	1.6	34.4	11.5	16.4	8.2	1.6	0.0	16.4	0.0
	別所地区（N=115）	12.2	18.3	10.4	2.6	2.6	4.3	5.2	1.7	19.1	17.4	15.7	0.9	1.7	0.0	27.0	2.6
	志染地区（N=92）	23.9	18.5	12.0	2.2	2.2	7.6	14.1	1.1	29.3	13.0	12.0	1.1	4.3	0.0	22.8	0.0
	細川地区（N=33）	30.3	39.4	12.1	3.0	3.0	21.2	6.1	6.1	33.3	36.4	9.1	3.0	0.0	0.0	9.1	3.0
	口吉川地区（N=28）	17.9	17.9	3.6	0.0	3.6	7.1	10.7	0.0	28.6	25.0	10.7	7.1	0.0	0.0	25.0	7.1
	緑が丘地区（N=171）	14.6	23.4	18.1	2.3	5.3	11.7	12.9	0.6	40.4	11.1	17.5	1.8	3.5	1.8	15.8	2.9
	自由が丘地区（N=227）	15.4	22.9	11.9	3.5	3.5	7.0	13.2	0.0	33.0	12.3	16.7	3.1	1.8	0.9	23.3	2.6
	青山地区（N=114）	21.9	20.2	11.4	0.9	3.5	12.3	9.6	2.6	41.2	14.0	23.7	3.5	1.8	0.0	18.4	0.9
	吉川地区（N=129）	23.3	18.6	13.2	5.4	3.1	7.0	9.3	1.6	38.0	23.3	15.5	2.3	2.3	0.8	13.2	2.3

問 20　あなたは、自分に必要な福祉サービスの情報をどの程度入手できていますか。

◆「今のところ情報を得る必要がない」が 36.4%と最も多く、次いで「十分ではないが入手できている」が 33.1%、「ほとんど入手できていない」が 14.1%となっています。

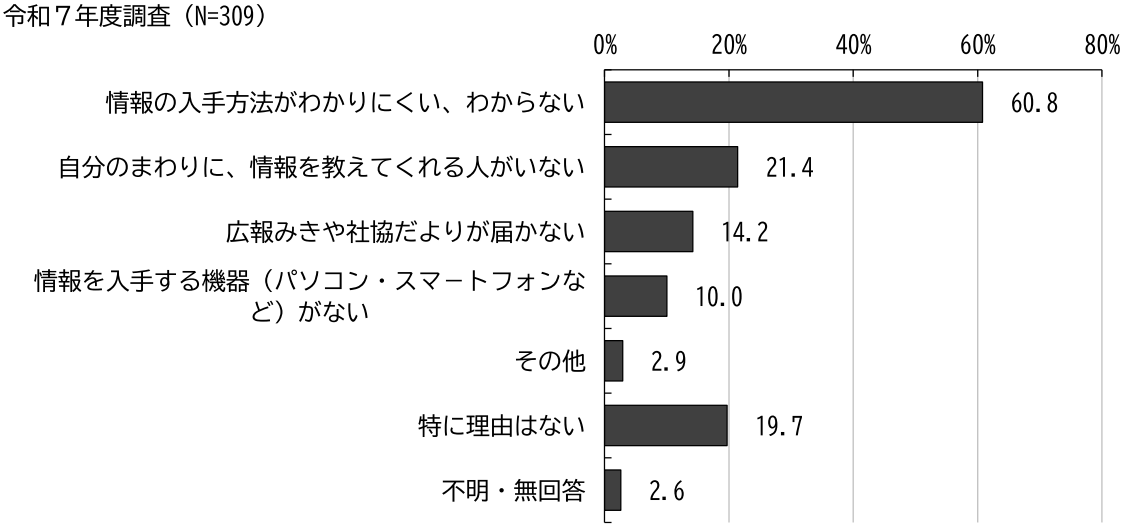
◆否定的な回答(「ほとんど入手できていない」または「まったく入手できていない」)の合計は 22.4%となっています。



問 20 で「ほとんど入手できていない」または「まったく入手できていない」と回答された方のみ

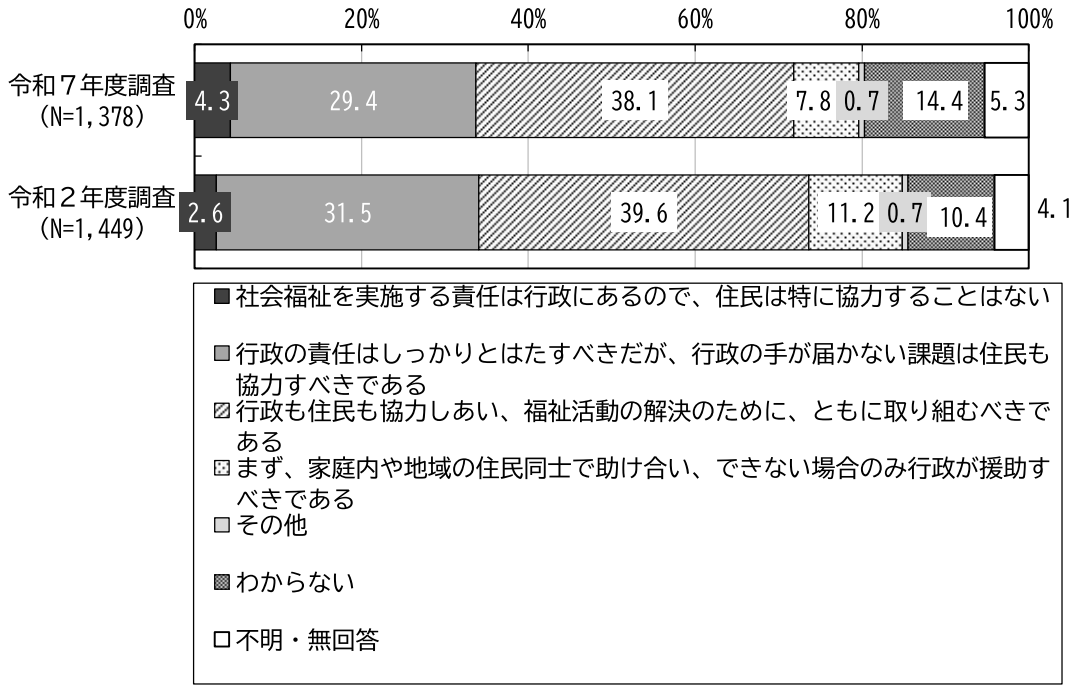
問 20－１　それはどのような理由ですか。【複数回答】

◆「情報の入手方法がわかりにくい、わからない」が 60.8％と最も多く、次いで「自分のまわりに、情報を教えてくれる人がいない」が 21.4％、「特に理由はない」が 19.7％となっています。



問 21　地域福祉を充実させていく上での、行政と地域住民の関係はどうあるべきとお考えですか。

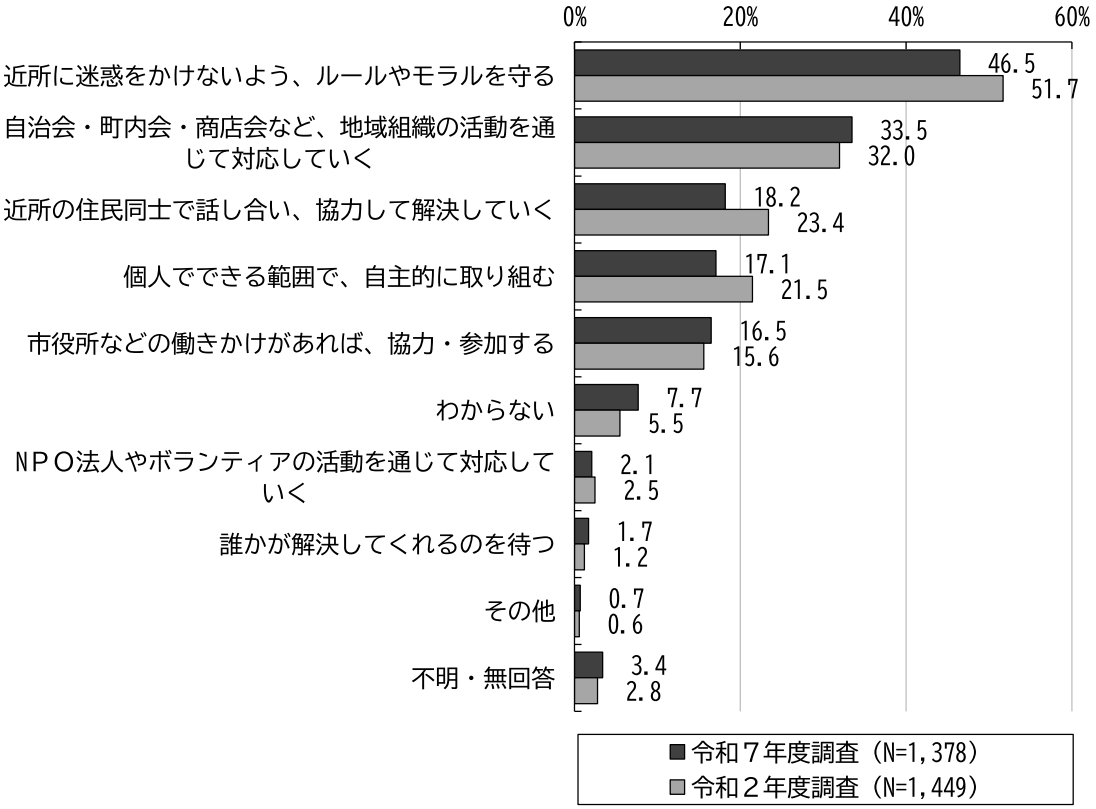
◆「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が 38.1%と最も多く、次いで「行政の責任はしっかりとはたすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」が 29.4%、「わからない」が 14.4%となっています。



問 22　地域の問題の解決に向け、あなたならどう対応しますか。【２つまで複数回答】

◆「近所に迷惑をかけないよう、ルールやモラルを守る」が 46.5%と最も多く、次いで「自治会・町内会・商店会など、地域組織の活動を通じて対応していく」が 33.5%、「近所の住民同士で話し合い、協力して解決していく」が 18.2%となっています。

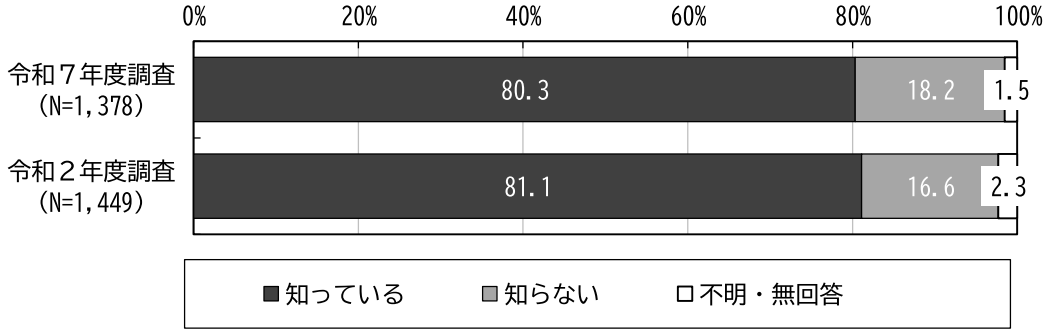
◆前回調査と比べると、「近所に迷惑をかけないよう、ルールやモラルを守る」「近所の住民同士で話し合い、協力して解決していく」「個人でできる範囲で、自主的に取り組む」が減少しています。



7．災害時等の対応について

問 23　風水害や地震などの災害が起こったとき、あなたは自分自身がどこに避難すればいいか知っていますか。

◆「知っている」が 80.3%、「知らない」が 18.2%となっています。
◆年齢別にみると、30 歳代では「知らない」が全体と比較して多くなっています。
◆地域別にみると、三木地区、別所地区、志染地区、自由が丘地区では「知らない」が２割台と、全体と比較して多くなっています。

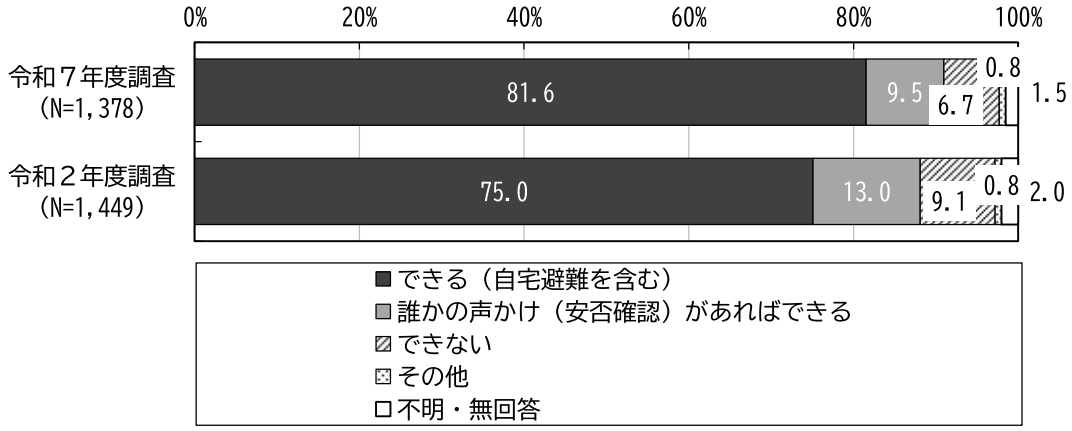


単位：%		知っている	知らない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		80.3	18.2	1.5
年齢別	10歳代（N=16）	93.8	6.3	0.0
	20歳代（N=63）	77.8	22.2	0.0
	30歳代（N=92）	68.5	31.5	0.0
	40歳代（N=132）	77.3	22.7	0.0
	50歳代（N=206）	78.2	21.8	0.0
	60歳～64歳（N=137）	76.6	22.6	0.7
	65歳～74歳（N=297）	86.5	12.8	0.7
	75歳以上（N=389）	82.5	13.9	3.6

単位：%		知っている	知らない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		80.3	18.2	1.5
地域別	三木地区（N=331）	77.6	20.2	2.1
	三木南地区（N=61）	88.5	9.8	1.6
	別所地区（N=115）	77.4	20.0	2.6
	志染地区（N=92）	76.1	23.9	0.0
	細川地区（N=33）	93.9	6.1	0.0
	口吉川地区（N=28）	92.9	7.1	0.0
	緑が丘地区（N=171）	81.9	15.8	2.3
	自由が丘地区（N=227）	78.0	21.6	0.4
	青山地区（N=114）	87.7	12.3	0.0
	吉川地区（N=129）	86.0	13.2	0.8

問 24　風水害や地震などが起こった時、あなたは一人で避難できますか。

◆「できる（自宅避難を含む）」が 81.6%、「誰かの声かけ（安否確認）があればできる」が 9.5%、「できない」が 6.7%となっています。
◆前回調査と比べると、「できる」が増加しています。
◆地域別にみると、志染地区、口吉川地区では「できない」が約 1 割と全体と比較して多くなっています。

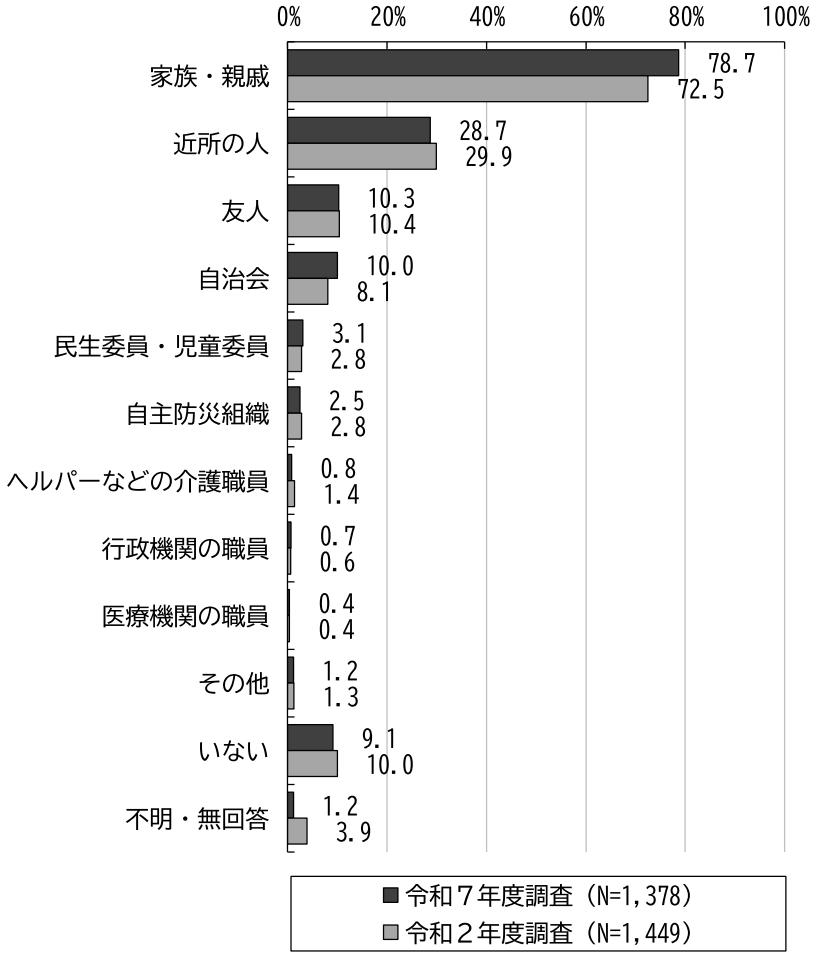


単位：%		できる（自宅避難を含む）	誰かの声かけ（安否確認）があればできる	できない
令和７年度調査（N=1,378）		81.6	9.5	6.7
地域別	三木地区（N=331）	81.0	9.7	6.9
	三木南地区（N=61）	93.4	3.3	3.3
	別所地区（N=115）	76.5	13.0	7.0
	志染地区（N=92）	80.4	9.8	9.8
	細川地区（N=33）	81.8	15.2	3.0
	口吉川地区（N=28）	82.1	7.1	10.7
	緑が丘地区（N=171）	81.3	11.1	5.3
	自由が丘地区（N=227）	81.9	9.3	7.0
	青山地区（N=114）	86.0	7.9	4.4
	吉川地区（N=129）	82.9	9.3	5.4

問 25　その際、誰か避難を手助けしてくれる方はいますか。【複数回答】

◆「家族・親戚」が 78.7%と最も多く、次いで「近所の人」が 28.7%、「友人」が 10.3%となっています。

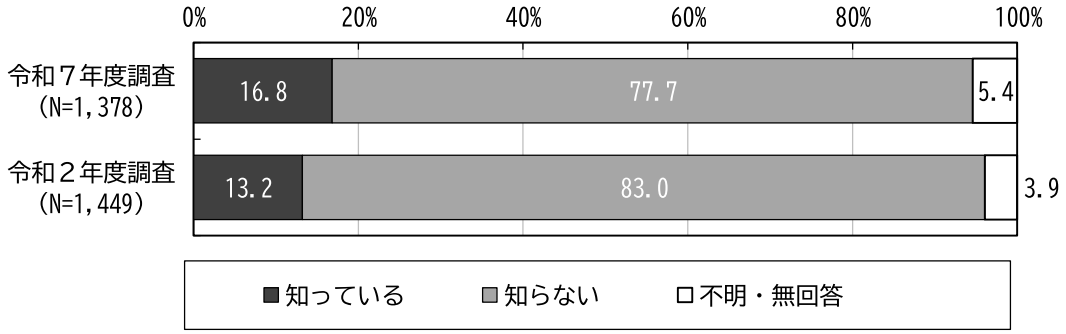
◆地域別にみると、細川地区、口吉川地区、吉川地区では「近所の人」が全体と比較して多くなっています。



単位：%		家族・親戚	近所の人	友人	自治会	自主防災組織	民生委員・児童委員	行政機関の職員	ヘルパーなどの介護職員	医療機関の職員	その他	いない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		78.7	28.7	10.3	10.0	2.5	3.1	0.7	0.8	0.4	1.2	9.1	1.2
地域別	三木地区（N=331）	75.8	24.2	10.3	9.1	2.4	4.5	0.6	0.9	0.3	1.8	9.7	1.5
	三木南地区（N=61）	82.0	27.9	4.9	14.8	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	1.6
	別所地区（N=115）	72.2	24.3	12.2	17.4	1.7	3.5	0.0	0.0	0.9	2.6	10.4	0.9
	志染地区（N=92）	78.3	23.9	13.0	14.1	1.1	0.0	1.1	2.2	0.0	0.0	8.7	0.0
	細川地区（N=33）	78.8	39.4	6.1	24.2	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	3.0
	口吉川地区（N=28）	78.6	50.0	14.3	14.3	14.3	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	緑が丘地区（N=171）	77.2	29.2	15.2	8.2	1.8	2.3	0.6	1.2	0.6	1.8	9.4	1.8
	自由が丘地区（N=227）	85.0	29.1	8.8	7.0	1.8	2.2	0.4	0.4	0.4	0.0	8.4	0.4
	青山地区（N=114）	82.5	25.4	5.3	5.3	0.9	0.9	0.9	0.0	0.9	1.8	7.9	0.0
	吉川地区（N=129）	80.6	38.8	8.5	7.8	4.7	4.7	1.6	1.6	0.8	0.8	7.0	0.8

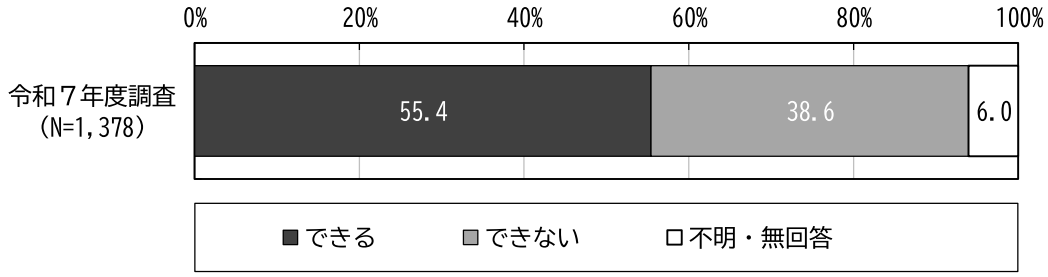
問 26　くらしあんしんシート（避難行動要支援者調査票）の取組をご存じですか。

◆「知っている」が 16.8%、「知らない」が 77.7%となっています。
◆前回調査と比べると、「知っている」が増加しています。



問 27　あなたは災害が発生した際に、何か手助けや対応ができますか。

◆「できる」が 55.4%、「できない」が 38.6%となっています。
◆地域別にみると、細川地区、口吉川地区、青山地区、吉川地区では「できる」が６割以上と、全体と比較して多くなっています。

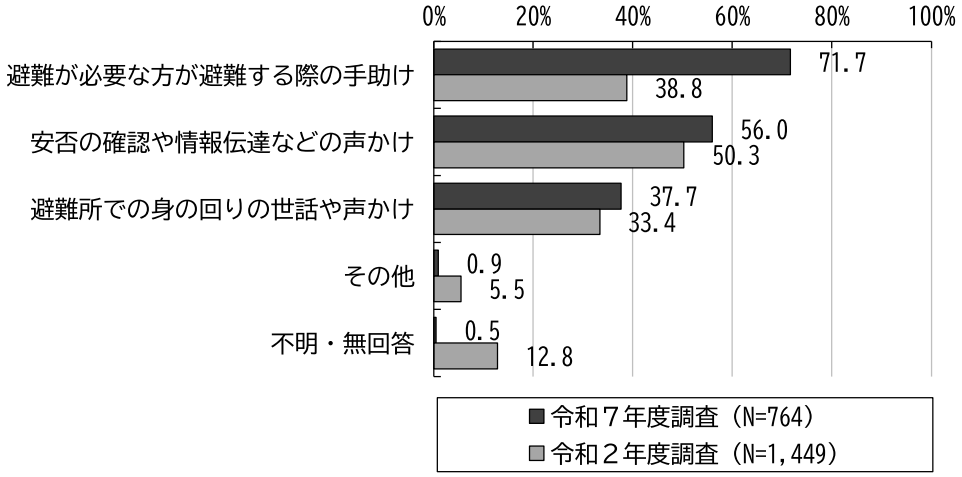


単位：%		できる	できない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		55.4	38.6	6.0
地域別	三木地区（N=331）	51.1	40.5	8.5
	三木南地区（N=61）	55.7	39.3	4.9
	別所地区（N=115）	55.7	33.0	11.3
	志染地区（N=92）	52.2	44.6	3.3
	細川地区（N=33）	60.6	36.4	3.0
	口吉川地区（N=28）	71.4	28.6	0.0
	緑が丘地区（N=171）	55.0	40.4	4.7
	自由が丘地区（N=227）	55.5	38.3	6.2
	青山地区（N=114）	64.0	35.1	0.9
	吉川地区（N=129）	62.0	33.3	4.7

問 27 で「できる」と回答された方のみ

問 27－１　どのような手助けや対応ができますか。【複数回答】

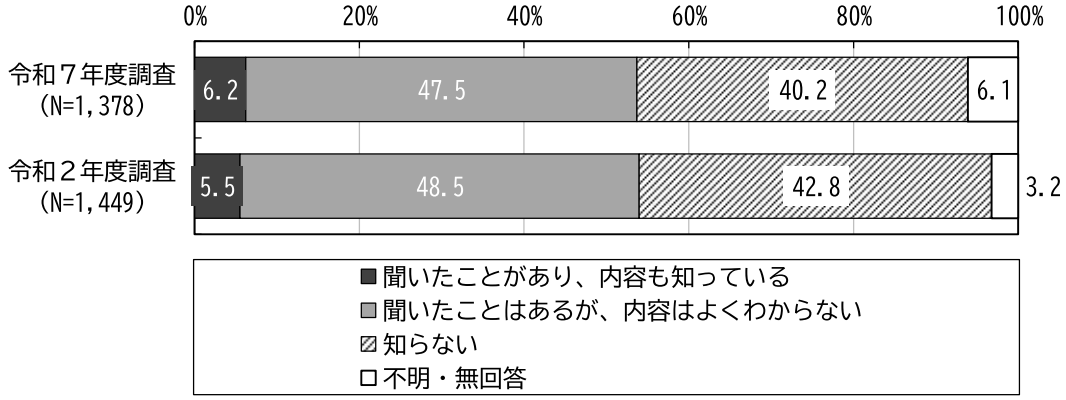
◆「避難が必要な方が避難する際の手助け」が 71.7％と最も多く、次いで「安否の確認や情報伝達などの声かけ」が 56.0％、「避難所での身の回りの世話や声かけ」が 37.7％となっています。



8．生活困窮者自立支援について

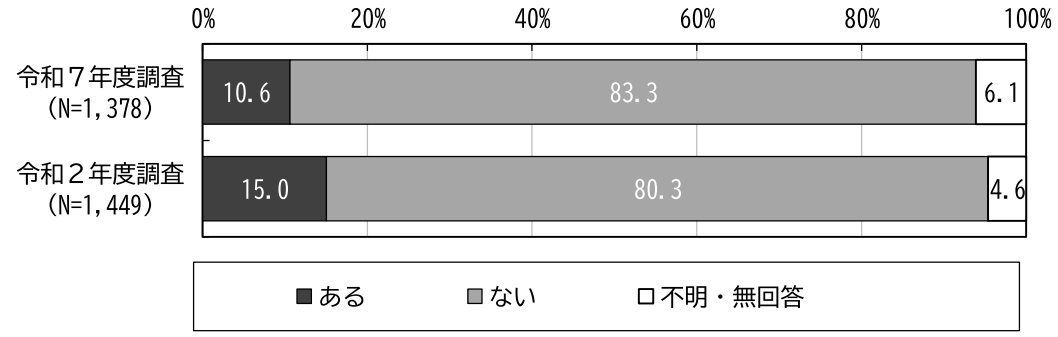
問 28　生活困窮者自立支援法（制度）について、知っていますか。

◆「聞いたことはあるが､内容はよくわからない」が 47.5%と最も多く､次いで「知らない」が 40.2%、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 6.2%となっています。



問 29　生活に困窮したことがありますか。

◆「ある」が 10.6%、「ない」が 83.3%となっています。
◆前回調査と比べると、「ある」が減少しています。

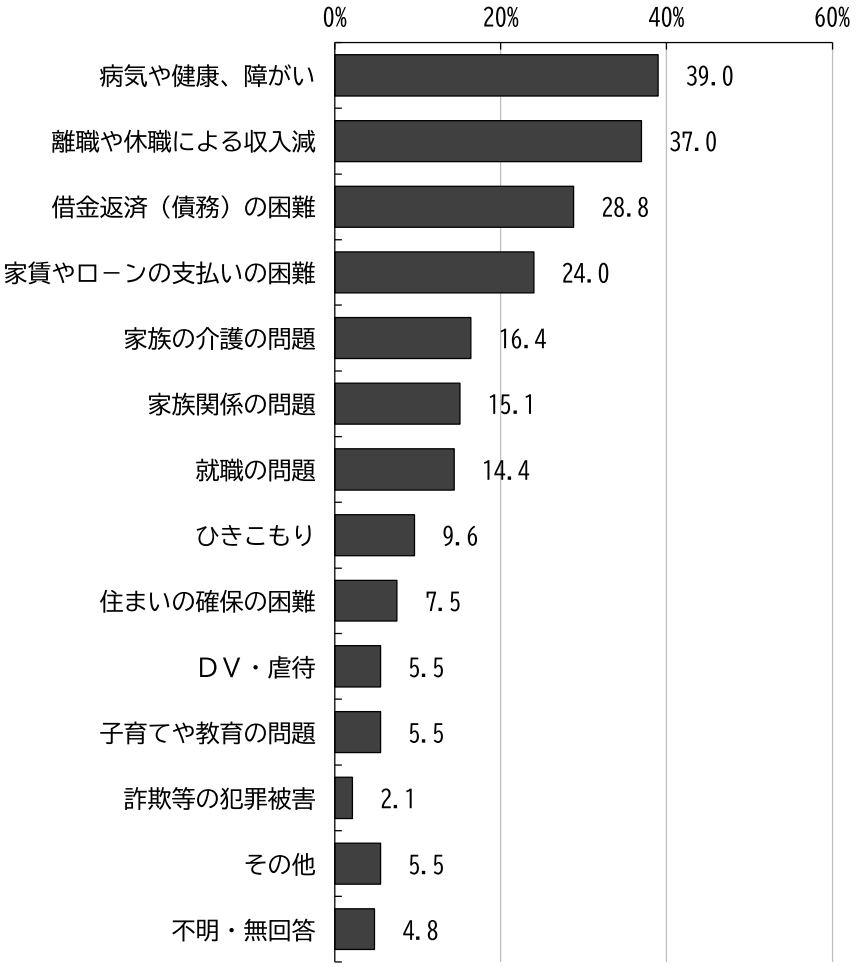


問 29 で「ある」と回答された方のみ

問 29－１　生活困窮について、あなたが経験したことは何ですか。　【複数回答】

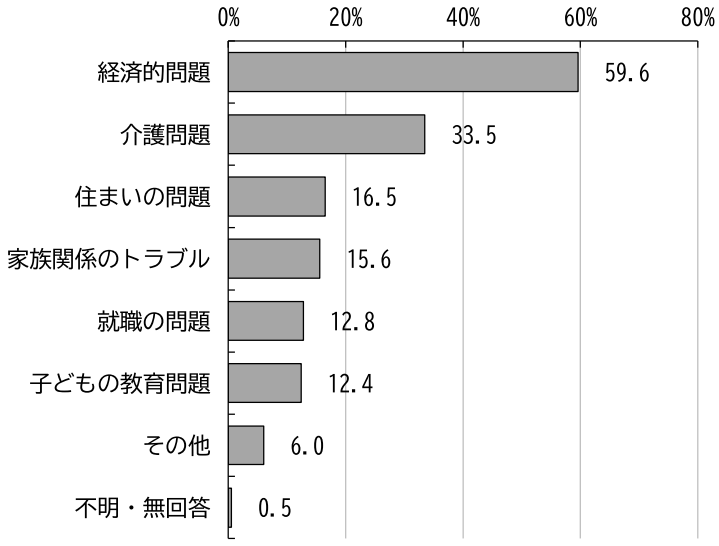
◆「病気や健康、障がい」が 39.0％と最も多く、次いで「離職や休職による収入減」が 37.0％、「借金返済（債務）の困難」が 28.8％となっています。

令和７年度調査（N=146）



【参考】前回調査結果

令和２年度調査（N=218）

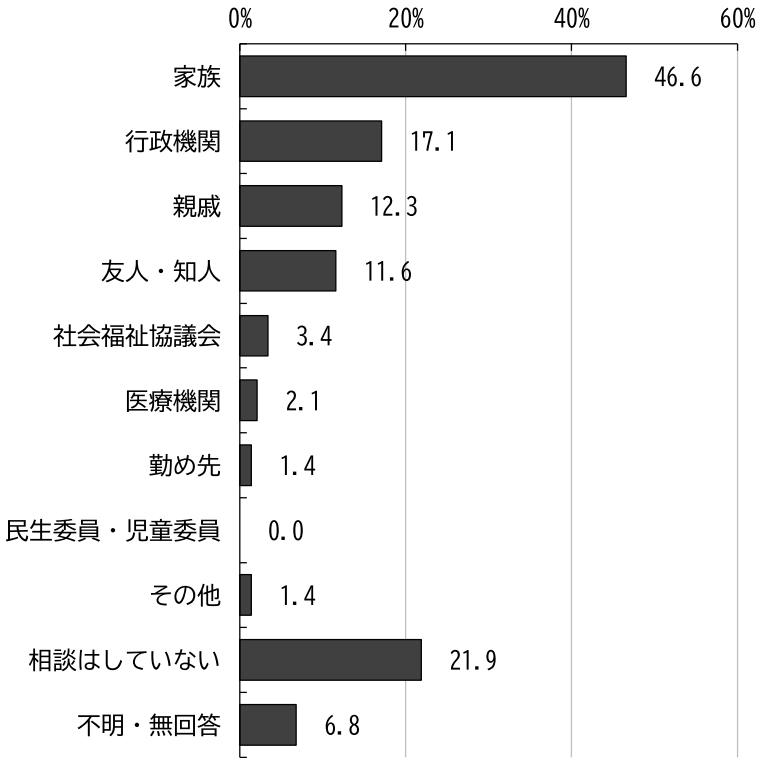


問 29 で「ある」と回答された方のみ

問 29－２　生活困窮したときに、相談したことがありますか。その相談先はどこですか。
【複数回答】

◆「家族」が 46.6％と最も多く、次いで「相談はしていない」が 21.9％、「行政機関」が 17.1％となっています。

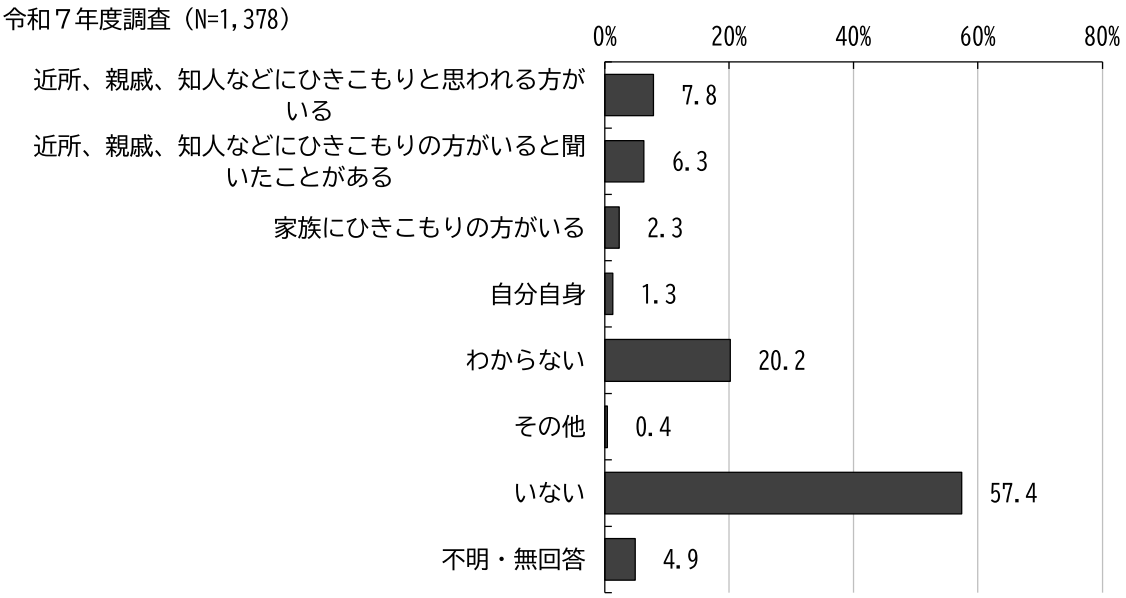
令和７年度調査（N=146）



9．ひきこもりについて

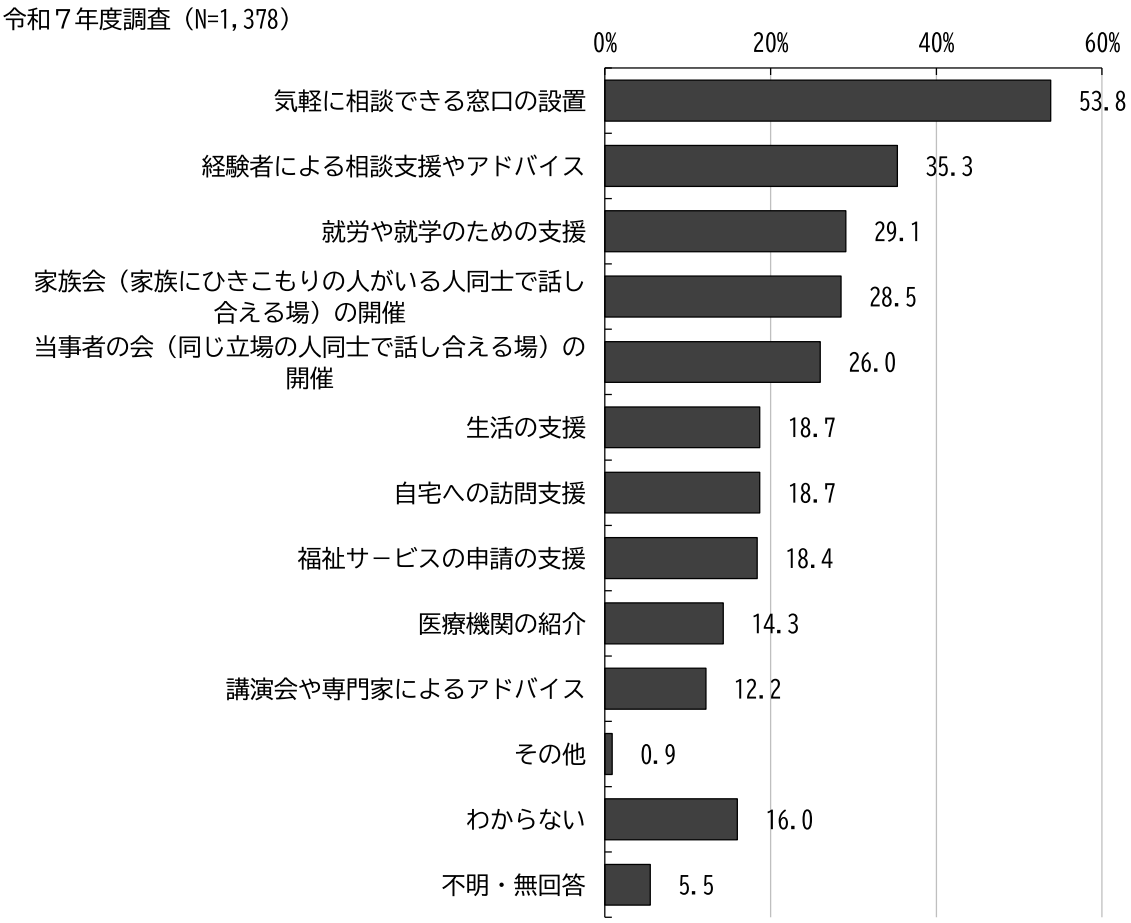
問 30　身近にひきこもりの方はいますか。【複数回答】

◆「いない」が 57.4%と最も多く、次いで「わからない」が 20.2%、「近所、親戚、知人などにひきこもりと思われる方がいる」が 7.8%となっています。



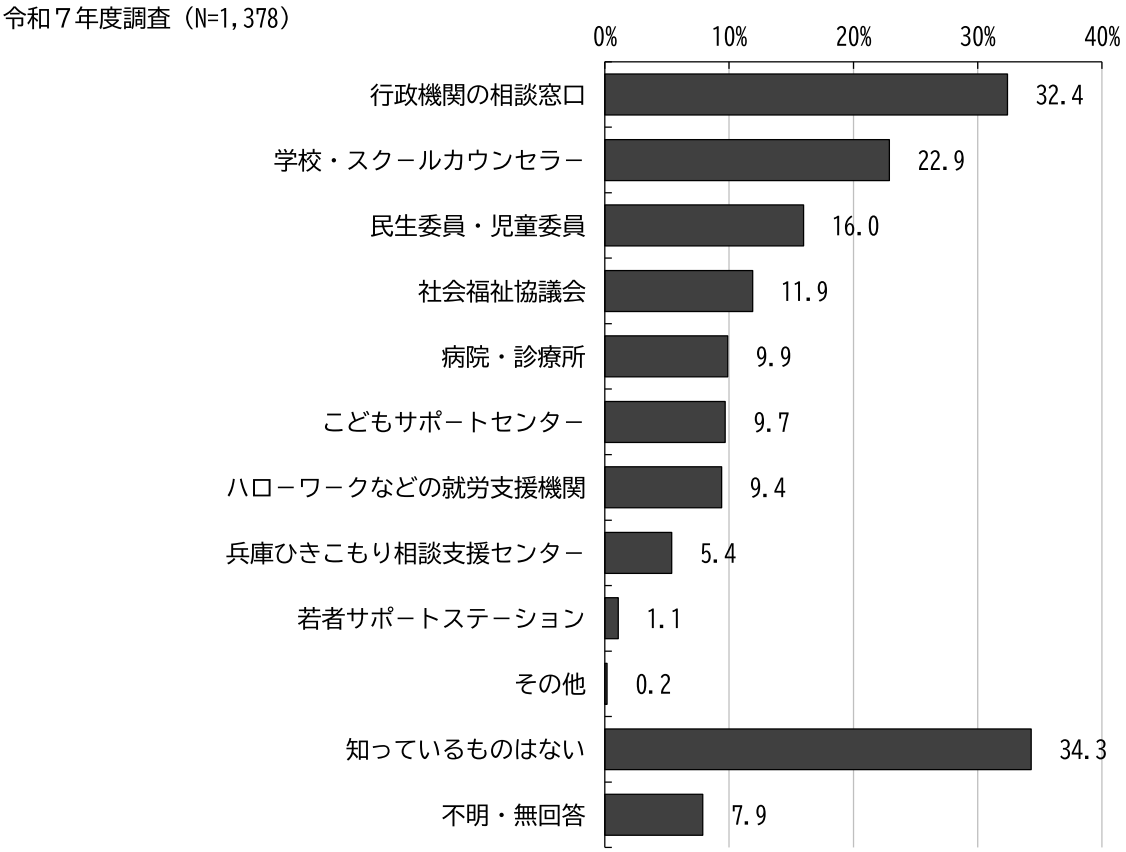
問 31　ひきこもりの方やそのご家族に必要と思われる支援はどれですか。【複数回答】

◆「気軽に相談できる窓口の設置」が 53.8%と最も多く、次いで「経験者による相談支援やアドバイス」が 35.3%、「就労や就学のための支援」が 29.1%となっています。



問 32　ひきこもりについて相談できる次の窓口や機関のうち、あなたが知っているものはありますか。【複数回答】

◆「知っているものはない」が 34.3％と最も多く、次いで「行政機関の相談窓口」が 32.4％、「学校・スクールカウンセラー」が 22.9％となっています。



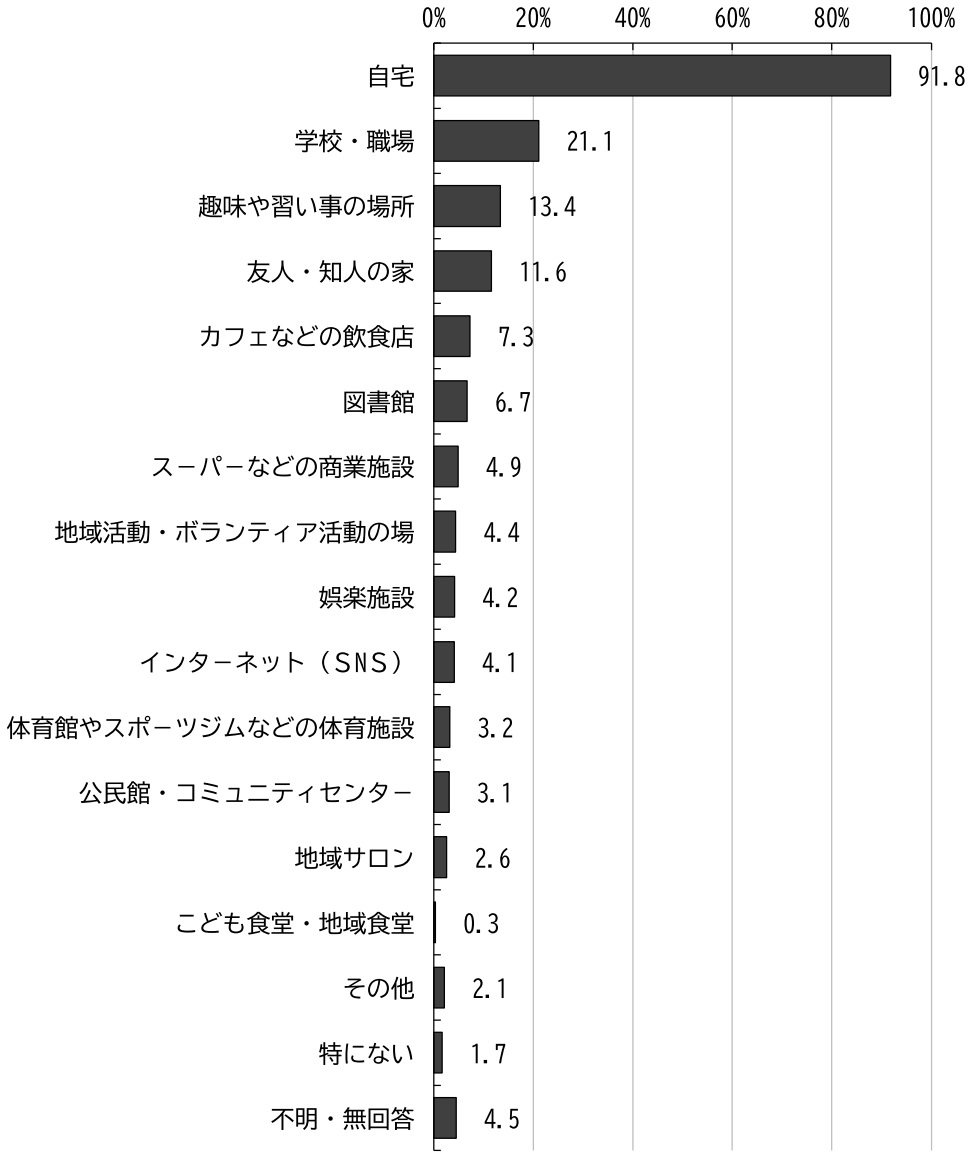
10. 居場所について

問 33　あなたにとって「居場所」と感じられる場所はどこですか。　【複数回答】

◆「自宅」が 91.8%と最も多く、次いで「学校・職場」が 21.1%、「趣味や習い事の場所」が 13.4%となっています。

◆年齢別にみると、10 歳代では「学校・職場」「友人・知人の家」がともに半数を占めています。30 歳代では「インターネット（ＳＮＳ）」が 1 割後半と、全体と比較して多くなっています。

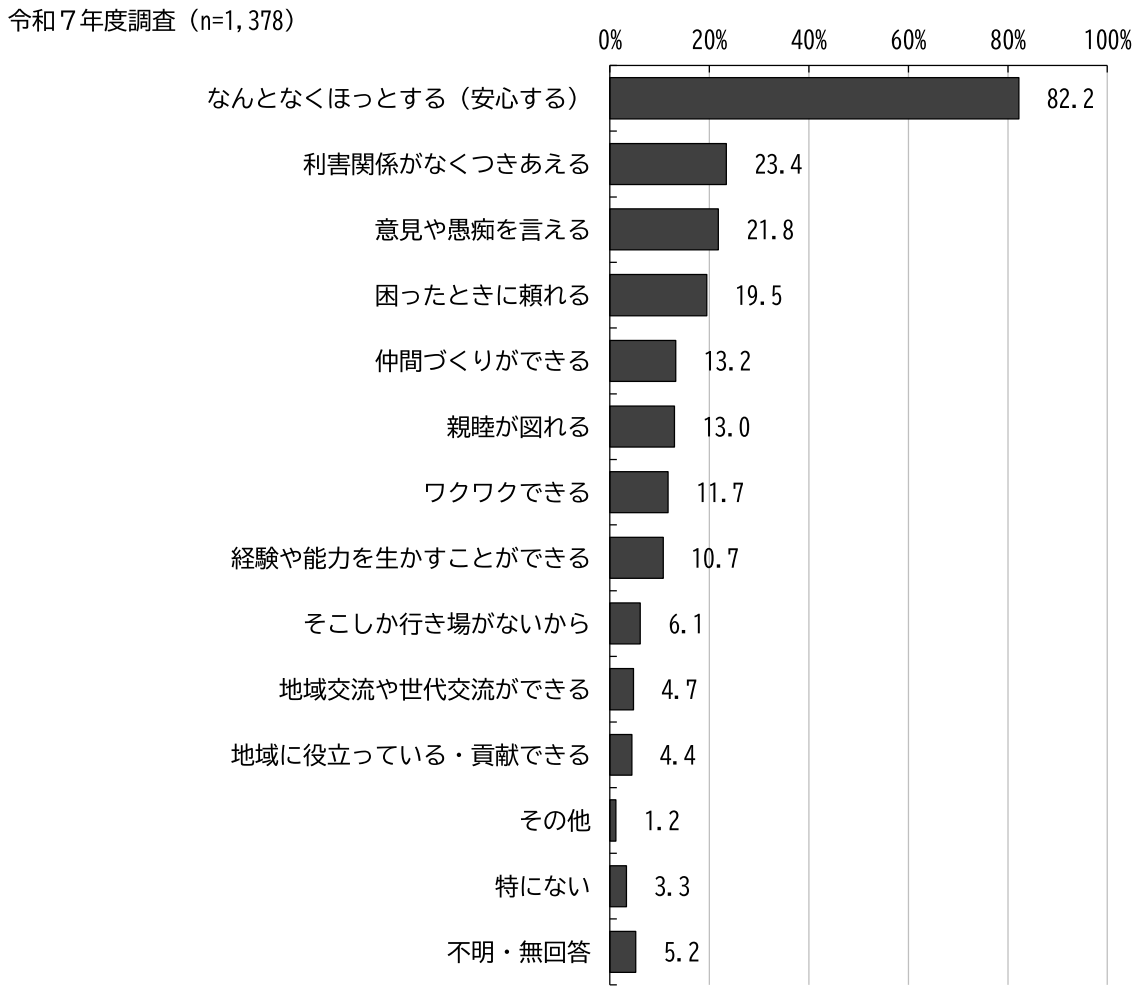
令和７年度調査（N=1,378）



単位：%		自宅	友人・知人の家	学校・職場	カフェなどの飲食店	スーパーなどの商業施設	公民館・コミュニティセンター	図書館	趣味や習い事の場所	地域サロン	体育館やスポーツジムなどの体育施設	娯楽施設	インターネット（SNS）	地域活動・ボランティア活動の場	こども食堂・地域食堂	その他	特にない	不明・無回答
令和７年度調査（N=1,378）		91.8	11.6	21.1	7.3	4.9	3.1	6.7	13.4	2.6	3.2	4.2	4.1	4.4	0.3	2.1	1.7	4.5
年齢別	10歳代（N=16）	93.8	50.0	56.3	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代（N=63）	90.5	28.6	42.9	9.5	4.8	0.0	4.8	6.3	0.0	1.6	4.8	9.5	1.6	0.0	3.2	3.2	1.6
	30歳代（N=92）	96.7	13.0	44.6	6.5	5.4	1.1	8.7	8.7	0.0	3.3	7.6	17.4	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0
	40歳代（N=132）	95.5	6.8	31.8	6.8	2.3	0.0	2.3	7.6	0.0	1.5	7.6	6.1	1.5	0.0	0.0	2.3	1.5
	50歳代（N=206）	96.1	8.7	37.4	4.4	3.4	1.5	3.4	12.6	0.5	2.9	4.4	2.9	2.4	0.5	2.4	1.0	1.5
	60歳～64歳（N=137）	89.1	16.1	34.3	5.8	3.6	0.0	6.6	14.6	0.7	2.2	3.6	2.2	2.2	0.0	2.2	4.4	5.1
	65歳～74歳（N=297）	93.3	10.8	9.8	8.1	6.1	3.0	7.1	15.5	3.0	4.0	3.4	3.7	5.4	0.7	2.0	0.0	3.7
	75歳以上（N=389）	88.4	9.8	3.3	8.7	6.2	7.2	9.5	16.2	5.7	3.6	3.3	1.3	8.0	0.0	3.3	2.1	7.5

問 34　あなたが「居場所」と感じられるのはどのような理由ですか。現在居場所と感じられる場所が有るか無いかにかかわらずお答えください。【複数回答】

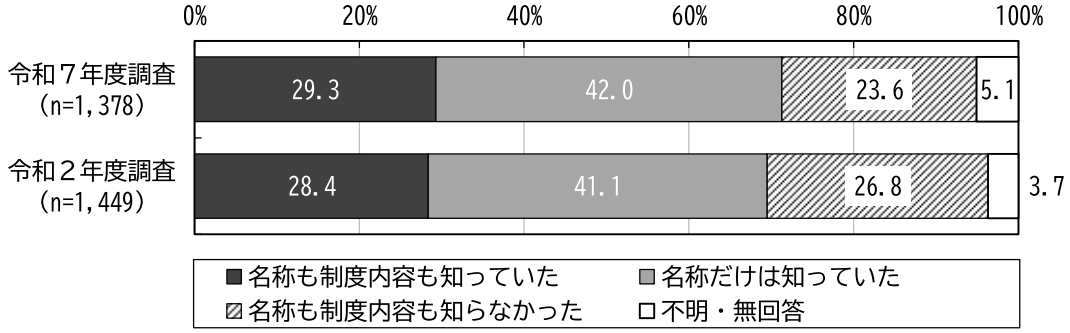
◆「なんとなくほっとする（安心する）」が 82.2％と最も多く、次いで「利害関係がなくつきあえる」が 23.4％、「意見や愚痴を言える」が 21.8％となっています。



11. 成年後見制度について

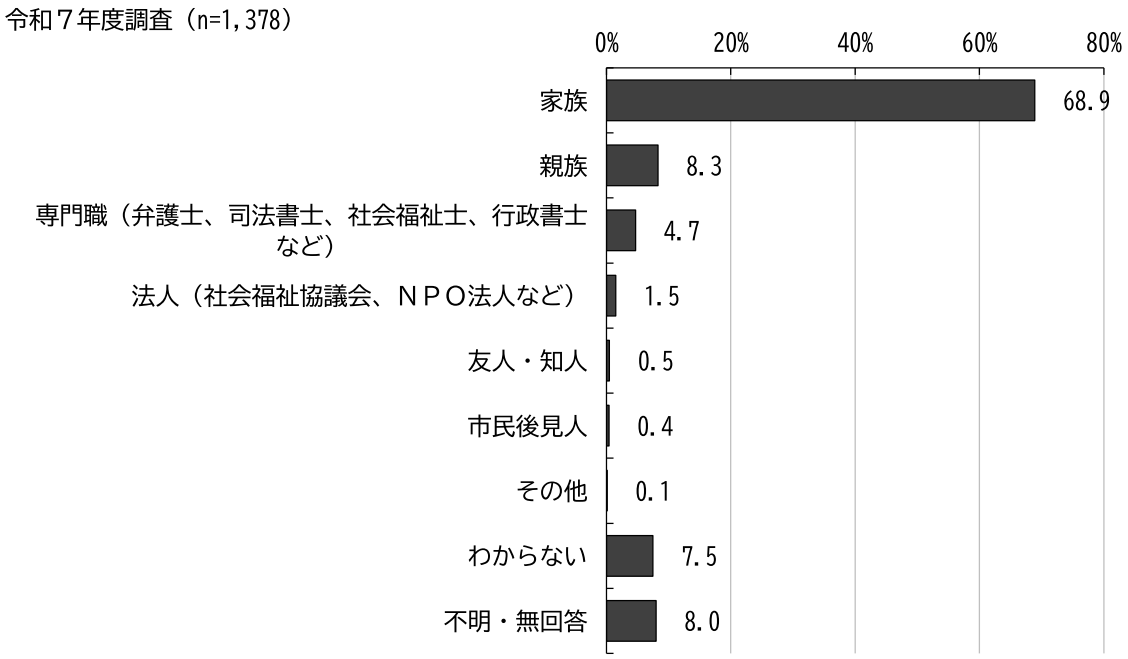
問 35　あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。

◆「名称だけは知っていた」が 42.0％と最も多く、次いで「名称も制度内容も知っていた」が 29.3％、「名称も制度内容も知らなかった」が 23.6％となっています。

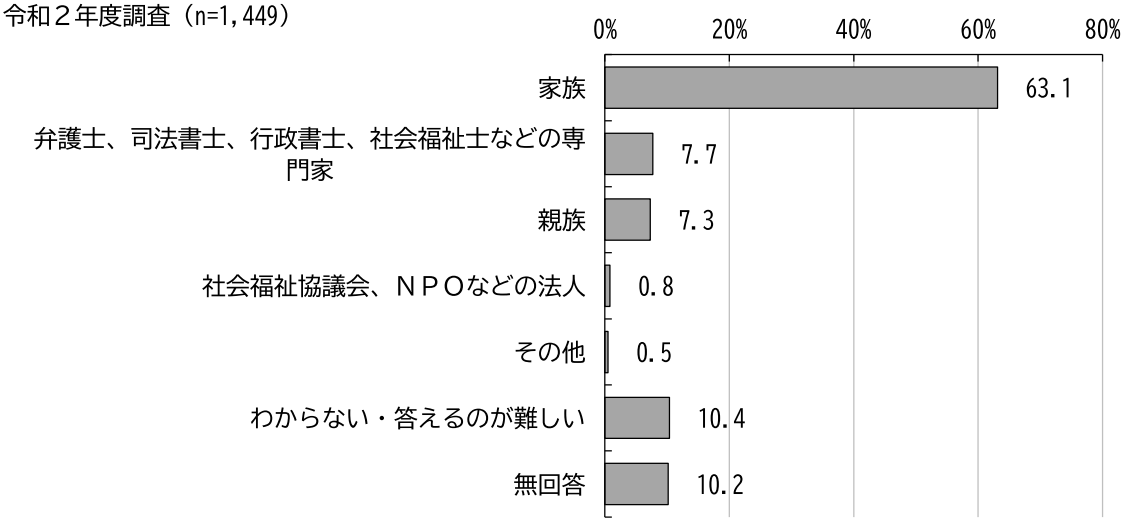


問 36　将来的に自分自身で判断ができなくなった場合は、「成年後見人等」は具体的に誰に任せたいですか。

◆「家族」が 68.9％と最も多く、次いで「親族」が 8.3％、「わからない」が 7.5％となっています。

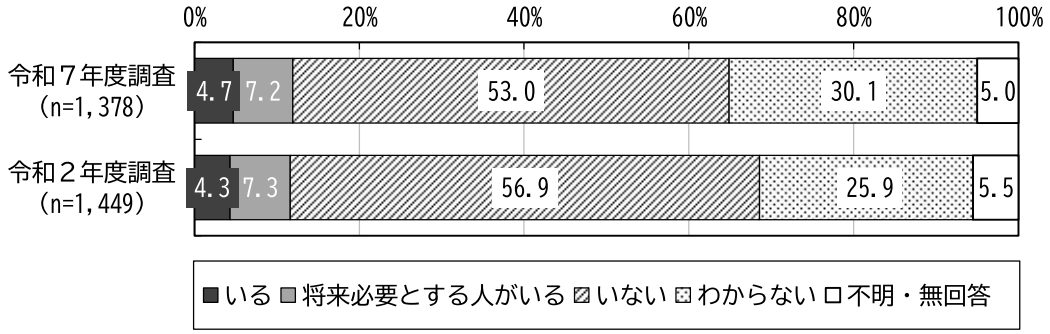


【参考】前回調査結果



問 37　あなたの身近に成年後見制度の利用を必要とする人はいますか。

◆「いない」が 53.0％と最も多く、次いで「わからない」が 30.1％、「将来必要とする人がいる」が 7.2％となっています。「いる」は 4.7％で、「将来必要とする人がいる」と合計すると 11.9％が、制度の利用の必要性を感じている回答をしています。

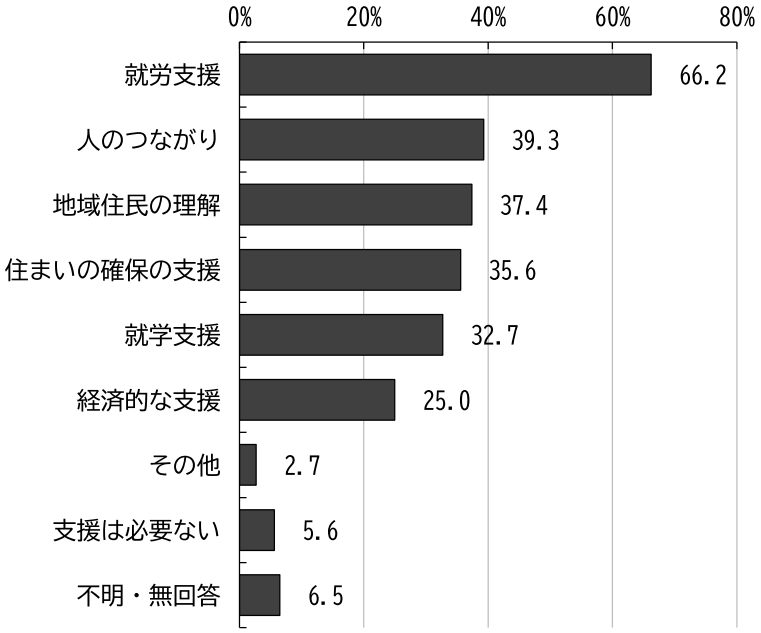


12. 再犯防止に関することについて

問38　非行や犯罪をした人の立ち直りのために必要だと思うことはありますか。【複数回答】

◆「就労支援」が66.2%と最も多く、次いで「人のつながり」が39.3%、「地域住民の理解」が37.4%となっています。

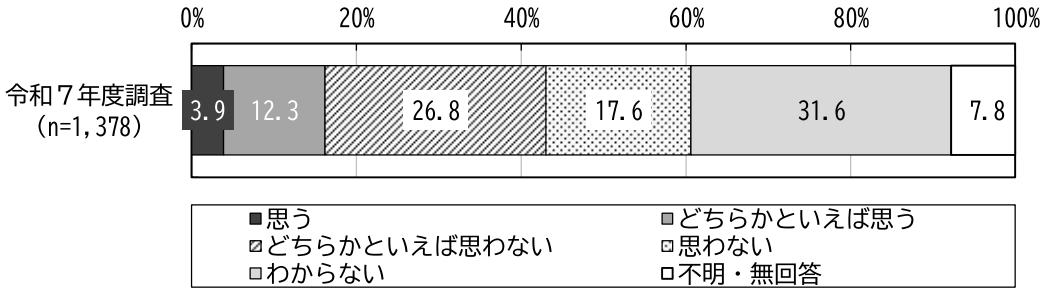
令和７年度調査（n=1,378）



問39　あなたは、非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

◆「わからない」が31.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば思わない」が26.8%、「思わない」が17.6%となっています。

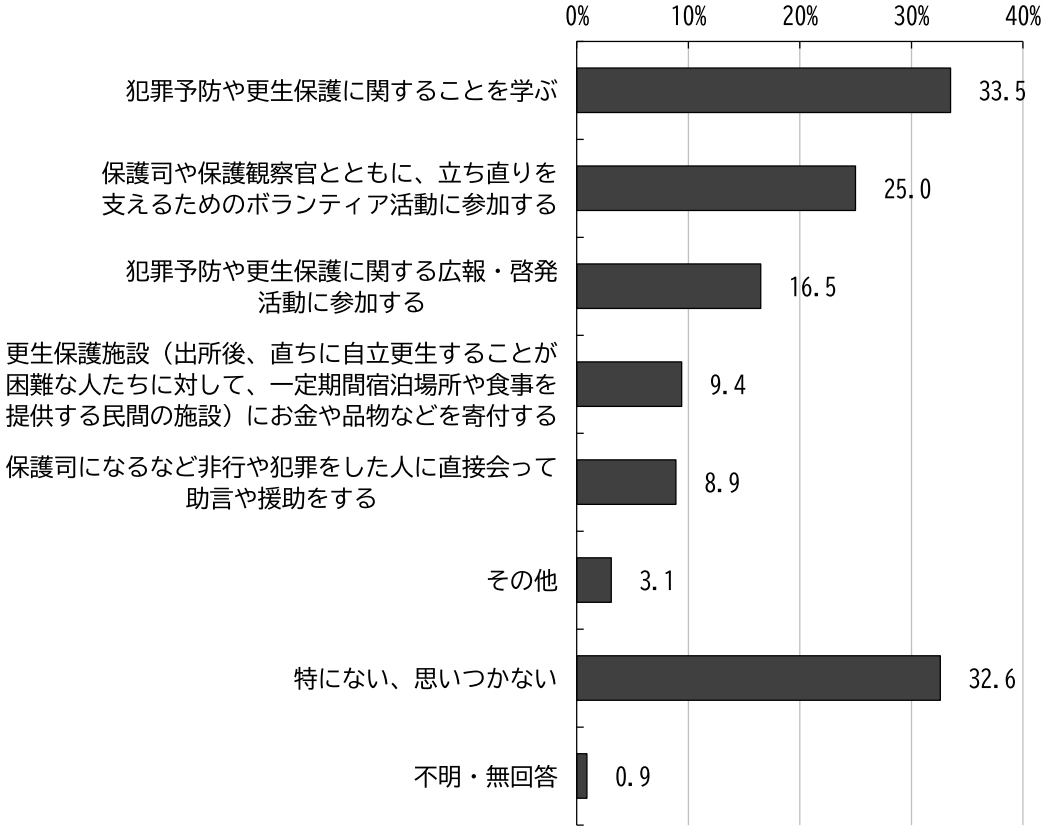
◆肯定的な回答（「思う」と「どちらかといえば思う」の計）は16.2%、否定的な回答（「思わない」と「どちらかといえば思わない」の計）は44.4%となっています。



問 39 で「思う」または「どちらかといえば思う」と回答された方のみ
問 39－１　どのような協力をしたいと思いますか。【複数回答】

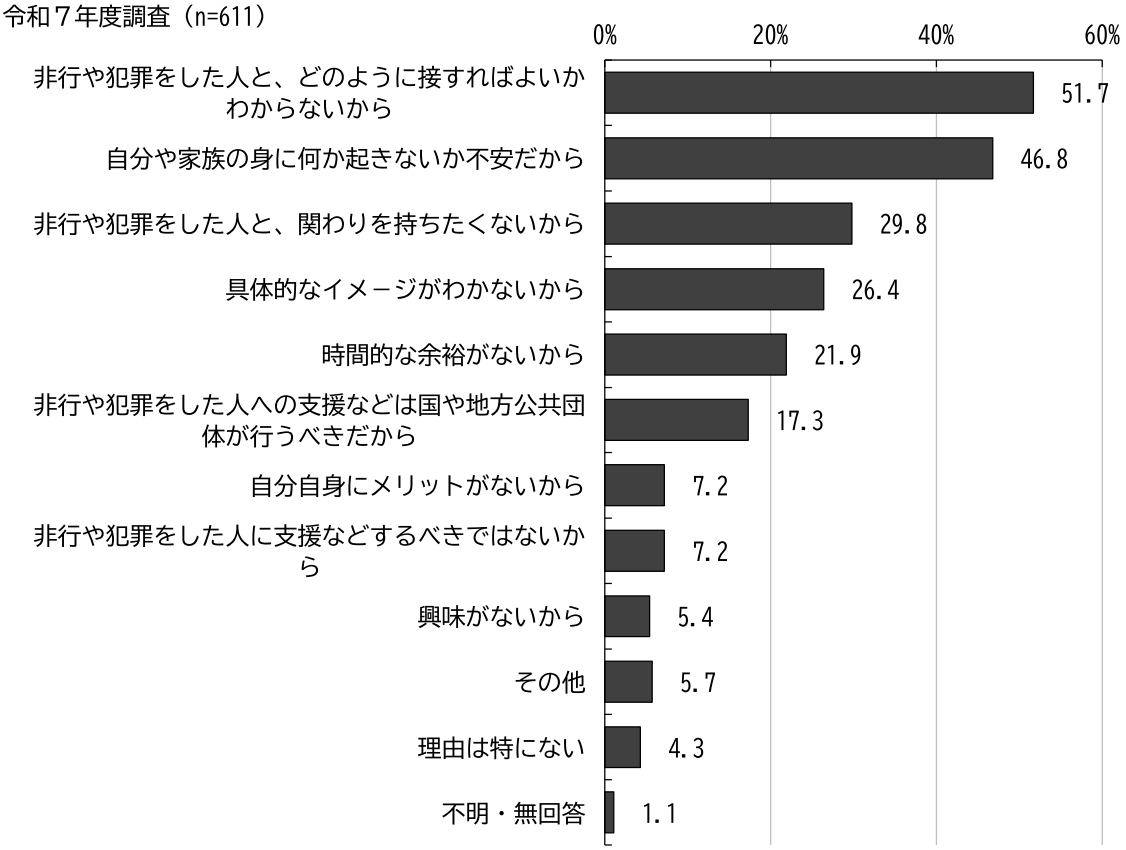
◆「犯罪予防や更生保護に関することを学ぶ」が 33.5％と最も多く、次いで「特にない、思いつかない」が 32.6％、「保護司や保護観察官とともに、立ち直りを支えるためのボランティア活動に参加する」が 25.0％となっています。

令和７年度調査（N=224）



問 39 で「どちらかといえば思わない」または「思わない」と回答された方のみ
問 39－２　協力したいと思わない理由を教えてください。【複数回答】

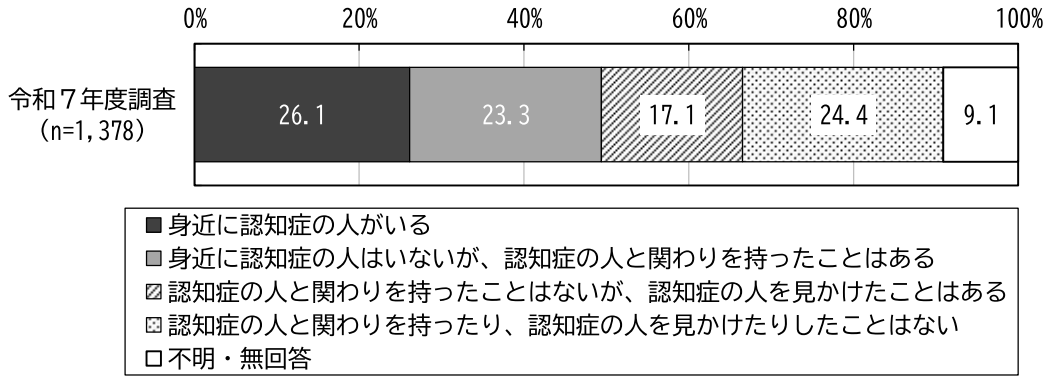
◆「非行や犯罪をした人と、どのように接すればよいかわからないから」が 51.7％と最も多く、次いで「自分や家族の身に何か起きないか不安だから」が 46.8％、「非行や犯罪をした人と、関わりを持ちたくないから」が 29.8％となっています。



13. 認知症について

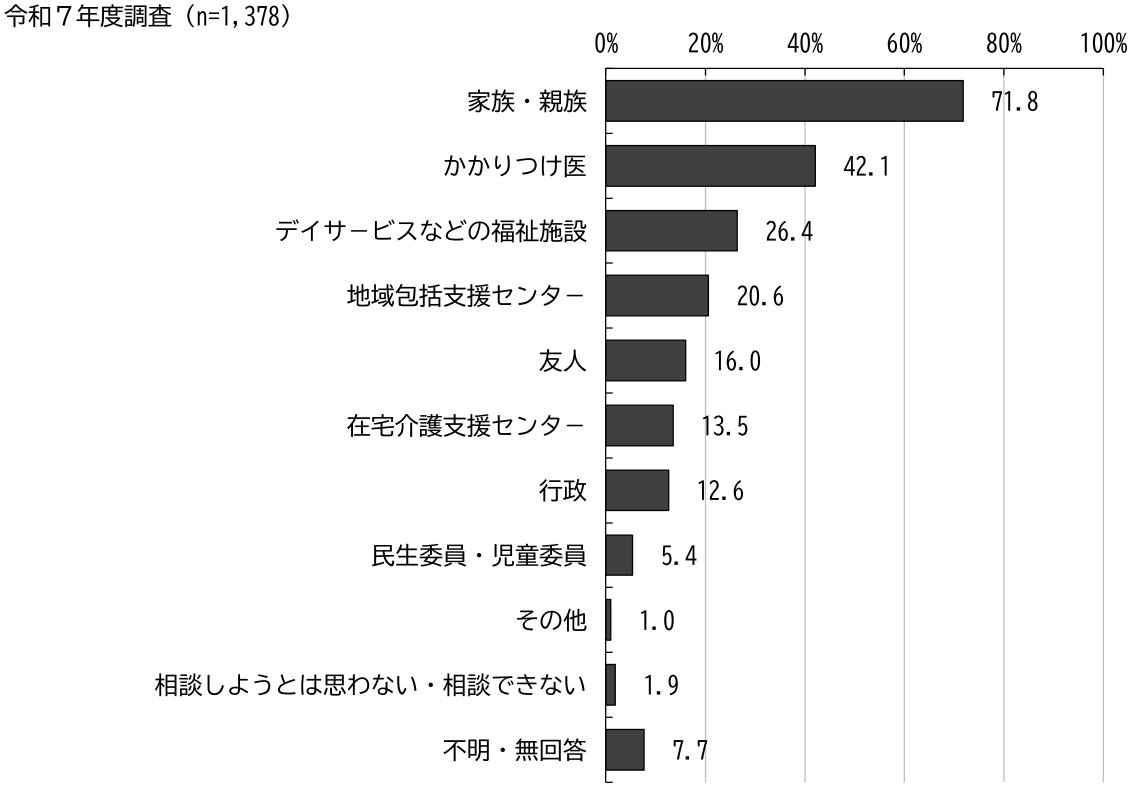
問 40　身近に（家族・友人など）認知症の人がいますか（いましたか）。または身近にいなくても、認知症の人と話したり、一緒に活動したり、支援したりなどの関わりを持ったことはありますか。

◆「身近に認知症の人がいる」が 26.1%と最も多く、次いで「認知症の人と関わりを持ったり、認知症の人を見かけたりしたことはない」が 24.4%、「身近に認知症の人はいないが、認知症の人と関わりを持ったことはある」が 23.3%となっています。



問 41　認知症について相談するとすれば誰にしますか。【複数回答】

◆「家族・親族」が 71.8%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が 42.1%、「デイサービスなどの福祉施設」が 26.4%となっています。

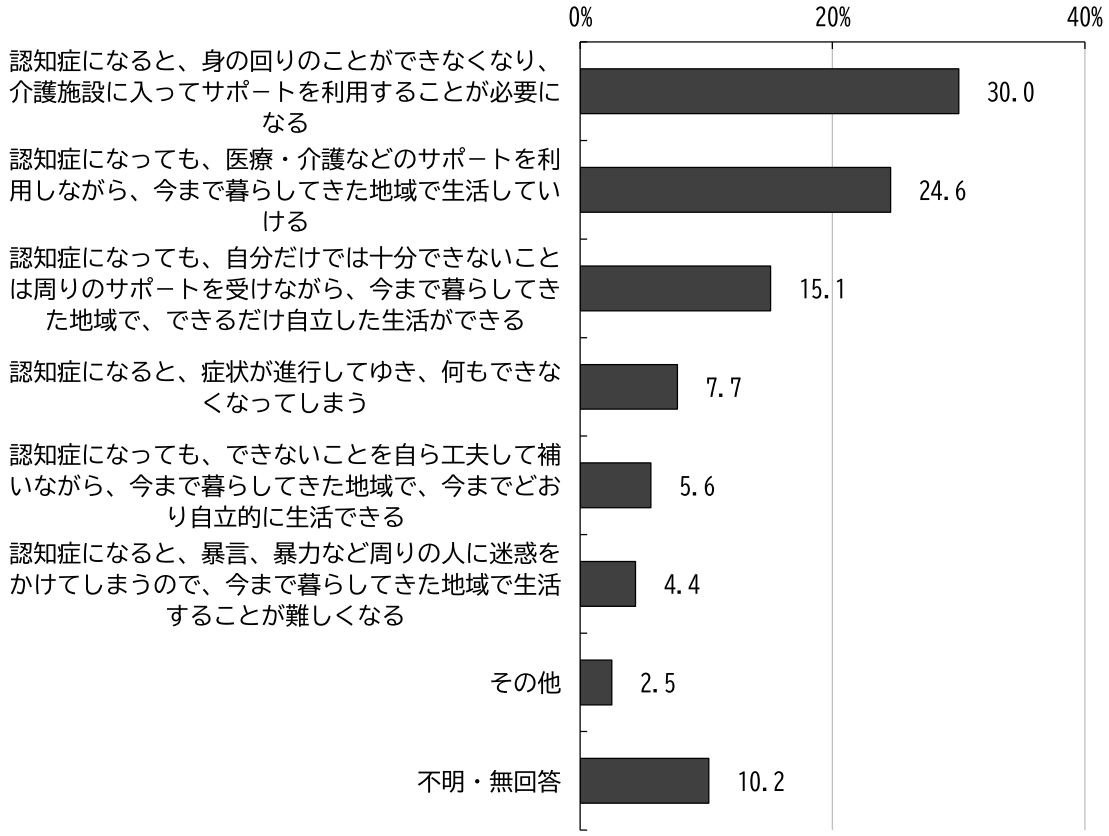


問 42　あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージに最も近いものをお答えください。

◆「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が 30.0%と最も多く、次いで「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が 24.6%、「認知症になっても、自分だけでは十分できないことは周りのサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活ができる」が 15.1%となっています。

◆いわゆる「新しい認知症観」に属する回答（「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と「認知症になっても、自分だけでは十分できないことは周りのサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活ができる」と「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる」の計）は、45.3%となっています。

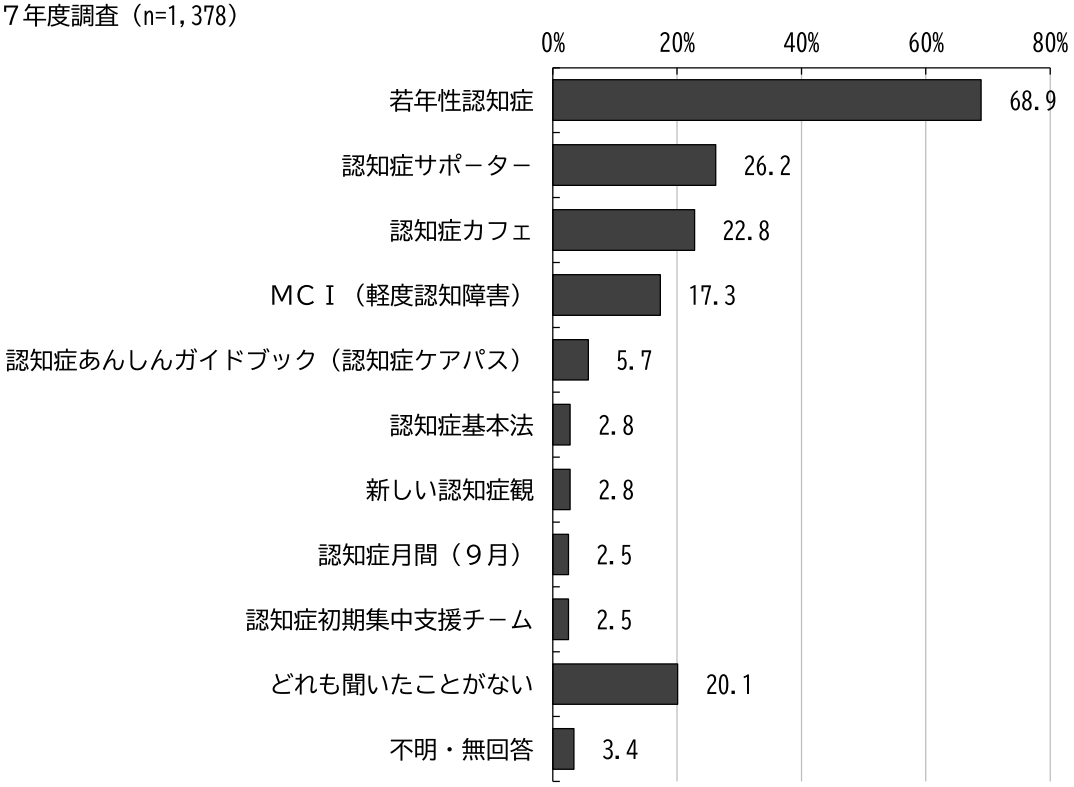
令和７年度調査（n=1,378）



問 43　認知症に関する以下の言葉を知っていたり、聞いたりしたことがありますか。知っていたり、聞いたりしたことがあるものをすべて選択してください。【複数回答】

◆「若年性認知症」が 68.9％と最も多く、次いで「認知症サポーター」が 26.2％、「認知症カフェ」が 22.8％となっています。

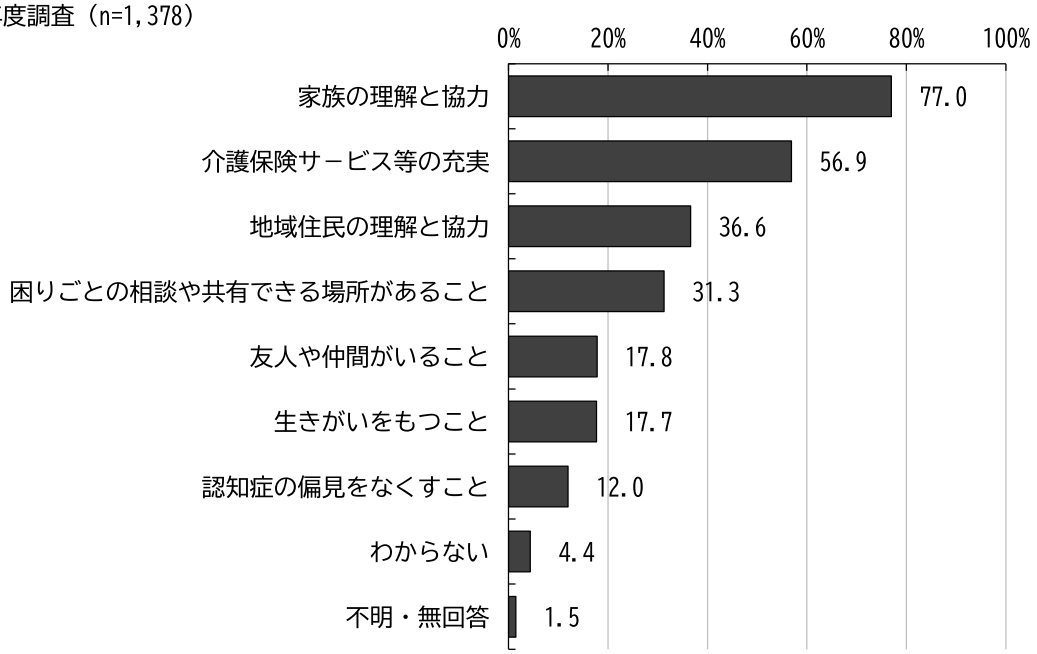
令和７年度調査（n=1,378）



問 44　認知症の人が住み慣れた地域で「希望」をもって暮らすには、何が必要だと思いますか。【３つまで複数回答】

◆「家族の理解と協力」が 77.0％と最も多く、次いで「介護保険サービス等の充実」が 56.9％、「地域住民の理解と協力」が 36.6％となっています。

令和７年度調査（n=1,378）



Ⅲ　調査結果から見た本市の課題について

１．地域の人間関係について

◆近所づきあいの状況を見ると、深いつきあいをしている割合が減少しており、若い世代（40歳代まで）ほど「ほとんどつきあっていない」が多くなっています。
◆つきあいのない理由について、前回調査と比べると、「わずらわしいのでご近所づきあいはしない」が増加しています。
◆近所に、身の回りのことや家事、外出などで困っている人がいる場合にどうするかについて、「頼まれたら、可能な範囲で協力する」がやや減少し、「責任が伴うことであり、個人的に協力することだと思わない」がやや増加しています。
◆地区での地域活動やボランティア活動に参加することについて、「参加したことがないし参加したいと思わない」は10歳代を除いて、若い年代（20歳代～40歳代）ほど多くなっています。

地域の人間関係の希薄化がうかがえる結果が示されています。また、単につきあいが浅くなっているだけではなく、積極的なつきあいを忌避する意識が、若い世代ほど大きいことも示されています。地域福祉の基盤となる地域の人間関係の再構築について、その必要性を積極的に啓発していくことが課題となります。

２．地域の助け合いへの意識について

◆地域の気にかかる人（支援が必要そうな人）について、30.8%の人が何らかの気にかかる人がいると回答しており、地域で支援が必要だと感じられる人の存在を意識する市民が一定数いることが示されています。気にかかる状況については、「ひとり暮らしで不安や心細さを感じている人」や「地域とのつながりがなく孤立している人」が上位となっています。
◆地域でできる手助けについては、「見守り・声かけ」「話し相手」が多く、前回調査より増加しています。
◆災害時にできる手助けについて、半数以上の人が「できる」と回答しており、「避難が必要な方が避難する際の手助け」「安否の確認や情報伝達などの声かけ」が上位となっています。
◆地域活動やボランティア活動に参加するうえで、支障になることについて、情報がない、きっかけがないという回答が３番目、４番目に多くなっており、一定数の人が適切な働きかけがあれば参加する可能性があることが示されています。

地域での助け合いへの意識は地域差や年齢差があるものの、一定の意識を有している人が少なくないことが示されており、適切な働きかけによって助け合いの活動に参加する人を増やしていける可能性があることが示されています。

３．支援を求める意識について

◆ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要と思う時について「ない」という回答が前回調査より減少しています。
◆生活困窮を経験したことがある人は約１割で前回より減少しています。一方で、その際に特に相談をしなかったという回答が２割を超えています。

地域の人間関係の希薄化の一方で、同居の家族以外の手助けが必要と思う意識は減少しておらず、支援を受けにくい状況が生まれている可能性があります。生活困窮など、実際に支援が必要な状況となっても、家族以外への支援を求めにくい状況があり、適切な支援につながりにくくなっているとすれば、今後の大きな課題となります。

４．地域福祉の情報や制度について

◆地域の民生委員・児童委員やその役割について、知っている人が増加しています。
◆くらしあんしんシート（避難行動要支援者調査票）の取組について、知っている人が増加しています。
◆成年後見制度について、「名称も制度内容も知らなかった」がやや減少しています。
◆ひきこもりについて相談できる窓口や機関について、約３分の１の人が「知っているものはない」と回答しています。
◆福祉サービスに関して必要な情報について、「特にない」が減少しています。
◆福祉サービスについての情報の入手手段について「特にない」が約２割、必要な情報が入手出来ているかどうかについては、否定的な回答が約２割となっており、一定数の人が福祉に関する情報の入手に課題を抱えていることがうかがえます。

くらしあんしんシートや成年後見制度について、住民の認知が向上していることは、これまでの取組の成果と言えます。一方で、相談窓口の情報の周知や、福祉サービスについての情報の入手については課題があることがうかがえる結果も示されており、さらなる取組が求められます。

５．支援を必要とする人への支援について

◆非行や犯罪をした人の立ち直りへの協力については否定的な回答が多くなっています。また、その理由として、情報の不足や不安感に関する回答が多くなっており、取組の協力への必要な情報が不足していることがうかがえます。

◆認知症について、いわゆる新しい認知症観に属する回答が半数近くとなっている一方、最も多いのは「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」となっています。

◆認知症に関する言葉については、「若年性認知症」を除くと、市の取組を含めて認知度が３割未満と低くなっており、住民に取組が浸透していない状況がうかがえます。

支援を必要とする人を支援する取組について、住民への正しい情報の周知や取組の啓発が十分ではない状況が示されており、引き続き情報の発信、提供が求められる状況です。

第５期三木市地域福祉計画の策定に係る市民アンケート調査報告書

令和８年５月

三木市　健康福祉部　福祉課
〒673-0492　兵庫県三木市上の丸町 10 番 30 号
TEL：0794-82-2000（内線 2463）　FAX：0794-82-9943